

生原大塚遺跡

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2022

高崎市教育委員会

例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市箕郷町生原字大塚 669-1、672、670-3、670-1 に所在する「生原大塚遺跡」（高崎市遺跡調査番号 818）の発掘調査報告書である。
 - 2 調査は、宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
 - 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、開発者様の費用負担によって行われた。
 - 4 発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
 - 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課・有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
 - 6 発掘調査は、令和 3 年 3 月 29 日から令和 3 年 4 月 30 日までの期間で実施した。調査面積は 78m²である。
 - 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は I を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
 - 8 基準・水準点測量および遺構平面測量はタナカ設計に委託した。
 - 9 空中撮影はクリエイト R に委託した。
 - 10 遺構および遺物撮影は、澤田が行った。
- 1 1 発掘調査から整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
片貝 有香・小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・清水 萬年・円谷 純・羽鳥 篤・渡 明秀
 - 1 2 調査にあたり、一建設株式会社の協力を受けた。
 - 1 3 発掘調査により得られた資料および出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡 例

- 1 遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を、水準線は標高を示す。座標は国家座標IX系を使用した。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 4 2 頁の遠景写真内の遺跡位置は、およその場所である。
- 5 揭載図の縮尺は、各キャプションおよび各図に示した通りである。
- 6 挿図中に使用した断面図において、土坑・ピットの底面と、竪穴建物およびカマド使用面と想定される部分は太線で表現した。
- 7 遺物実測図において、小型製品の須恵器の断面は黒塗り、土師器の断面は白抜きで表現した。
- 8 遺物実測図において、反転復元実測をした個体は口縁部線と中心線を離して表現した。
- 9 遺物観察表での須恵器の器種記述において、体部が直線的な個体を高台付壺とし、体部が湾曲的な個体を壺とした。
- 1 0 本書で使用した火山噴出物の記述表現で約 3mm 以上の発泡したものを『軽石』それ以下を『粒』とした。
- 1 1 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。

As-C 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
As-B 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	4
V 調査の成果	6
VI 総括	18
写真図版	
参考文献・抄録	

挿図・挿表目次

第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)	3
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)	4
第3図 基本堆積土層 柱状図・写真	4
第4図 遺跡全体図 (1/80)	5
第5図 1・2・6号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60) 出土遺物図 №1 (1/2) №2 (1/3)	8
第6図 3号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60)	8
第7図 3号竪穴建物 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)	9
第8図 4・5号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60) 4号竪穴建物 出土遺物図 №7・8 (1/3) №9 (1/4) №10 (1/2)	9
第9図 4号竪穴建物 カマド 平面図・断面図・エレベーション図 (1/30)	10
第10図 4・5号竪穴建物 掘り方 平面図 (1/60) 5号竪穴建物 出土遺物図 №11 (1/3) №12 (1/4)	10
第11図 7号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60)	11
第12図 7号竪穴建物 カマド 平面図・断面図 (1/30)	11
第13図 7号竪穴建物 掘り方 平面図 出土遺物図 №13～20・26 (1/3) №21～25 (1/4)	12
第14図 8号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60) カマド平面図・断面図・エレベーション図 (1/30)	13
第15図 8号竪穴建物 掘り方 平面図 (1/60)	13
第16図 8号竪穴建物 出土遺物図 (1/4)	14
第17図 1号集石遺構 平面図・断面図・エレベーション図 (1/30)	14
第18図 1号集石遺構 出土遺物図 №35～38 (1/4) №39 (1/3)	15
第19図 畦跡 断面図 (1/40)	15
第20図 1～5号土坑 平面図・断面図 (1/40)	16
第21図 1～20号ピット 平面図・断面図 (1/40)	16
第22図 21～23号ピット 平面図・断面図 (1/40)	17
第1表 土坑・ピット計測表 (単位cm) +は以上 重複：新>古	17
第2表 出土遺物 遺物観察表 (単位：cm)	17

写真図版

PL1:空撮写真 PL2:調査写真 PL3:調査写真 PL4:調査写真 PL5:調査写真 PL6:調査写真
PL7:調査写真 PL8:調査写真・遺物写真 PL9:遺物写真

I 調査に至る経緯

令和2年11月中旬、事業者である一建設株式会社から、高崎市箕郷町生原において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である大塚遺跡内に所在するため、工事前に文化財保護法第93条第1項の規定による届出が必要であることを伝えた。

令和2年12月18日、市教委に第93条第1項の届出、埋蔵文化財確認調査申請書が提出され、令和3年1月20日に確認調査を実施した。その結果、古代の集落遺構を確認した。この結果をもとに事業者と市教委で協議したが、道路工事部分について現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお、遺跡名については「生原大塚遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に準じ、令和3年3月8日に事業者：一建設株式会社・民間調査機関：有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結、事業者と民間調査機関の間で発掘調査の契約を締結し、調査実施にあたっては市教委が指導・監督することになった。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約60cm下であることが確認されている為、令和3年3月30日に重機にて表土を除去し、遺構確認面まで下げた。その後、ジョレンを用いた人力にて遺構確認作業を行った。結果、市教育委員会の試掘通り、竪穴建物および土坑が検出された。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。全ての遺構は、トータルステーションを使用して平面図を作成し、断面図は手実測にて作成した。遺構撮影は、35mm小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの2種類のフィルムを使用し、1010万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。全ての遺構の調査が終了した後、ドローンにて空撮を実施し、併せて各遺構の全景撮影を行った。令和3年4月26日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け、その後、基本土層を確認する為に深掘りを行い、現地調査を終了した。

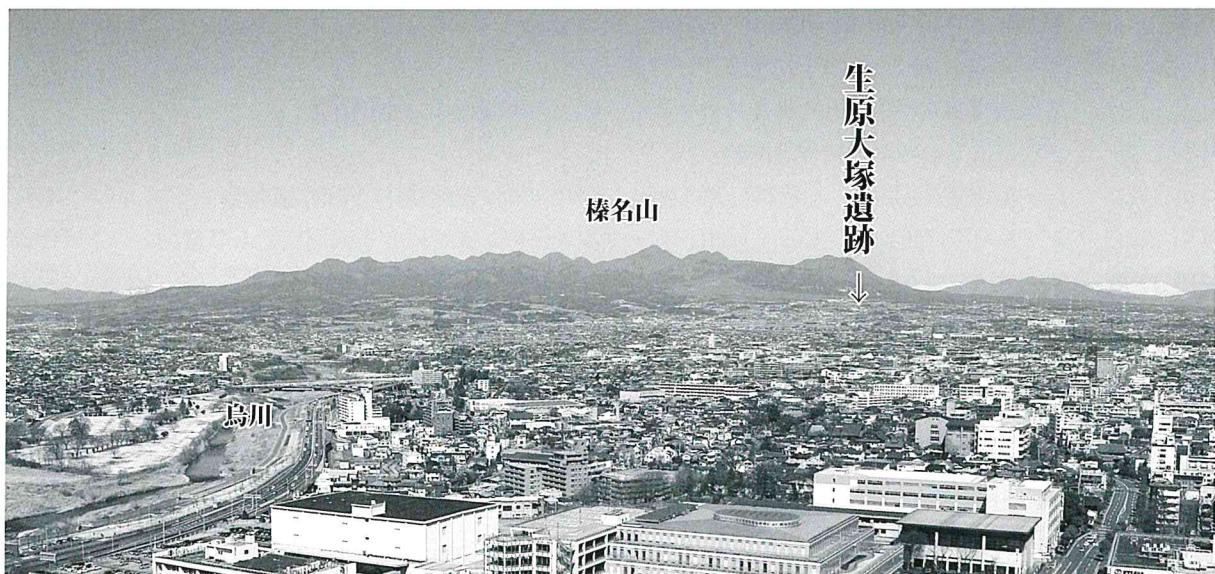
- 3月29日 機材搬入 調査区計り出し 現場調査準備
- 3月30日 重機による表土除去作業開始 調査区内樹木（梅）の伐採作業
- 3月31日 重機による表土除去作業終了 遺構確認作業開始
- 4月1日 近世遺構の畠跡および土坑掘り下げ作業開始
- 4月5日 近世遺構調査終了 トータルステーションによる測量および全景撮影
- 4月6日 古代面までの掘り下げ作業開始
- 4月12日 1～5号竪穴建物跡 1号集石遺構検出 1・2号竪穴建物掘り下げ作業開始
- 4月15日 6～8号竪穴建物跡 ピット検出 トータルステーションにて平面測量および遺物取り上げ作業
- 4月19日 3・4号竪穴建物掘り下げ作業
- 4月21日 5～8号竪穴建物掘り下げ作業 各ピット掘り下げ作業
- 4月22日 空撮実施 トータルステーションによる各遺構平面測量 各竪穴建物掘り方調査開始
- 4月23日 As-C軽石凝集層部の精査
- 4月26日 高崎市教育委員会による発掘作業完了確認
- 4月27日 基本堆積土層確認の為深堀作業 トータルステーションによる各遺構平面測量
- 4月28日 本日にて現地調査終了 撤収作業
- 4月30日 重機による埋戻し作業

III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

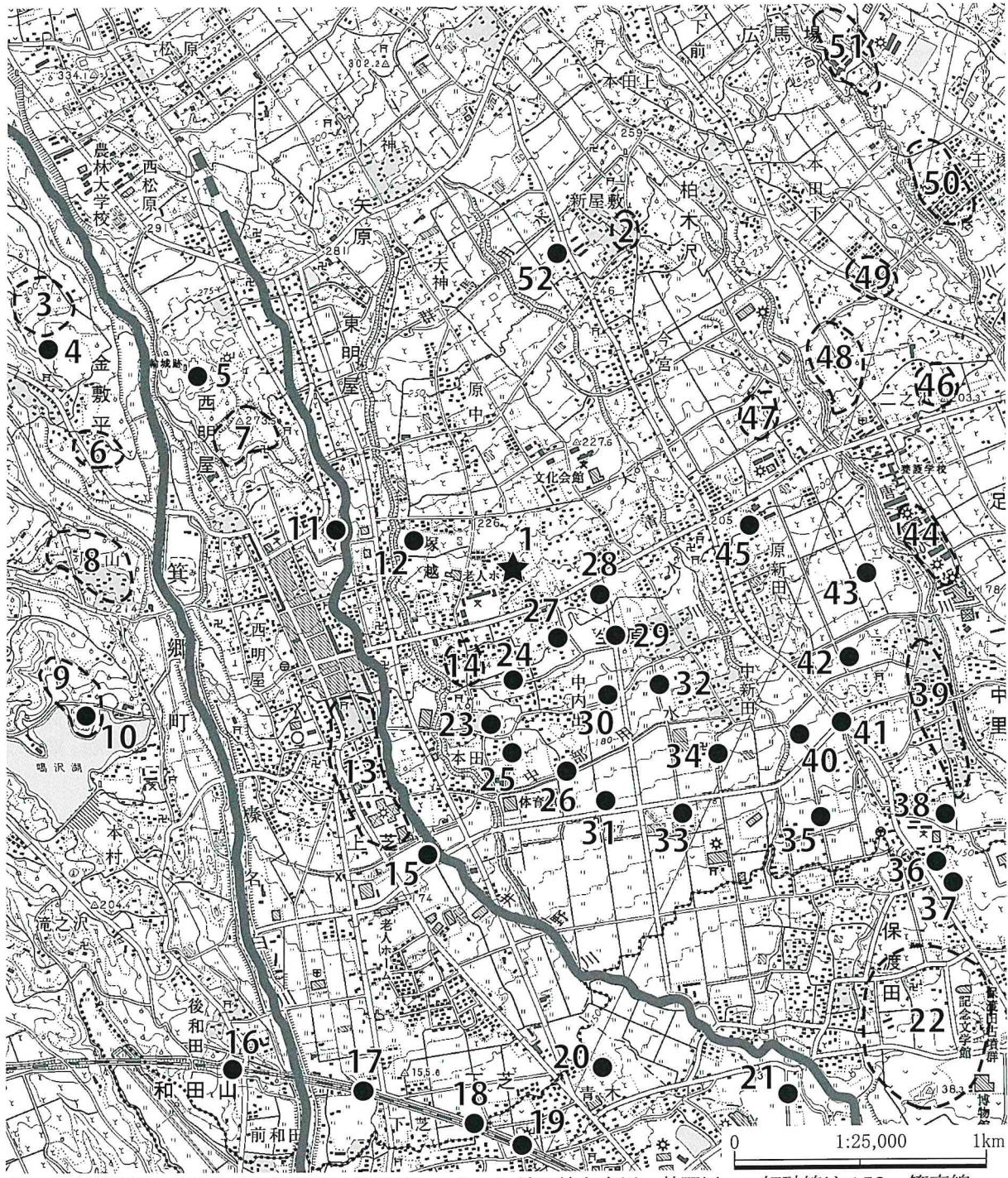
群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉢山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。生原大塚遺跡は、高崎市街地から北北西に約9kmの位置にあり、市立箕郷中学校の北東約200mに位置する。

本遺跡がある箕郷町は、町を南流する榛名白川と井野川を境に地形が大きく異なっている。榛名白川右岸にみられる開析谷は十文字面とされ、起伏に富む古期の扇状地である。井野川左岸に広がる暖傾斜地は相馬ヶ原扇状地で榛名山（標高1,449m）東南麓に広がっている。そして、榛名白川と井野川に挟まれた幅狭な扇状地地形が白川扇状地とされる。十文字面が形成された後、約1.7万年前の陣場岩屑なだれで相馬ヶ原扇状地が形成され、その上に古墳時代に起きた2度に及ぶ火山爆発によって引き起こされた泥流が堆積してきた地形である。下芝五反田遺跡（19）周辺では約4～5m程の堆積が認められている。本遺跡は、相馬ヶ原扇状地を開析する井野川と、この支流である大清水川とに挟まれた台地上にあり、緩やかに南南東へ傾斜している。遺跡周辺の標高は213.3mである。

周辺では、縄文時代早期から草創期の石器および前期の土器が確認された生原田島・大清水遺跡（45）があるが、生活の痕跡が認められるのは縄文時代中期頃からである。八反畠遺跡（29）では竪穴住居、保渡田Ⅱ遺跡（43）では敷石住居、飯盛遺跡（33）では埋設土器、善龍寺前遺跡（34）においては竪穴住居の他、配石遺構や埋甕が検出されている。また、当該期の包含層も海行A・B遺跡（40・41）、飯盛遺跡、金敷平・長者久保遺跡（4）、生原・八反畠遺跡（28）等で確認され、周辺に縄文時代中期の集落が存在することを示唆している。弥生時代の遺跡は、標高150m以上の地域では確認されず、周辺では保渡田・荒神前遺跡（35）にて弥生時代後期樽式期の住居が検出されているが、本遺跡に近接しての遺跡は認められない。古墳時代になり標高150m以上の地域は墓域として確立される様相を示し、多くの古墳（10～12・20・38）や、古墳群（2・3・6～9・13・14・39・44・46～51）が構築されるようになり、当該期に周辺を広域に治めた首長墓である保渡田古墳群（22）も本遺跡南東約2.5kmに構築されている。集落跡においても古墳時代以降増加し、下芝天神遺跡（18）、下芝五反田遺跡（19）では祭祀跡も検出されている。奈良・平安時代においては墓域とされていた標高の高い地域においても生活の場を求めて開拓されるようになり、遺跡は急増する傾向にある。中世になると本遺跡北西約1.4kmには箕輪城（5）が築城され、飯盛遺跡では当該期の居館が確認されており、生原の砦（23）も存在する。このように周辺は縄文時代以降各時代において生活の痕跡が多く認められる地域である。



高崎市役所からの遠景



1. 本遺跡
2. 新屋敷古墳群
3. 長者久保古墳群
4. 金敷平・長者久保遺跡
5. 箕輪城
6. 街道東古墳群
7. 箕輪城下層古墳群
8. 原山古墳群
9. 鴨入古墳群
10. 京塚古墳
11. 椿山古墳
12. 行人塚古墳
13. 上芝古墳群
14. 本田古墳群
15. 上芝・西金沢遺跡
16. 和田山天神前遺跡
17. 下芝上田屋遺跡
18. 下芝天神遺跡
19. 下芝五反田遺跡
20. 下芝・谷ヶ古墳
21. 保渡田・皿掛遺跡
22. 保渡田古墳群
23. 生原の砦
24. 生原・天神前遺跡
25. 薬師遺跡
26. 堀の内遺跡
27. 全徳森遺跡
28. 生原・八反畠遺跡
29. 八反畠遺跡
30. 諏訪遺跡
31. 佐藤遺跡
32. 中新田遺跡
33. 飯盛遺跡
34. 善龍寺前遺跡
35. 保渡田・荒神前遺跡
36. 保渡田・昌徳寺前II遺跡
37. 保渡田・昌徳寺前遺跡
38. 大塚古墳
39. 屋鋪古墳群
40. 海行A遺跡
41. 海行B遺跡
42. 西芝遺跡
43. 保渡田II遺跡
44. 足門村西古墳群
45. 生原田島・大清水遺跡
46. 金井沢古墳群
47. 東谷古墳群
48. 下ノ原古墳群
49. 下ノ原II古墳群
50. 王塚古墳群
51. 金井古墳群
52. 柏木沢中沢遺跡

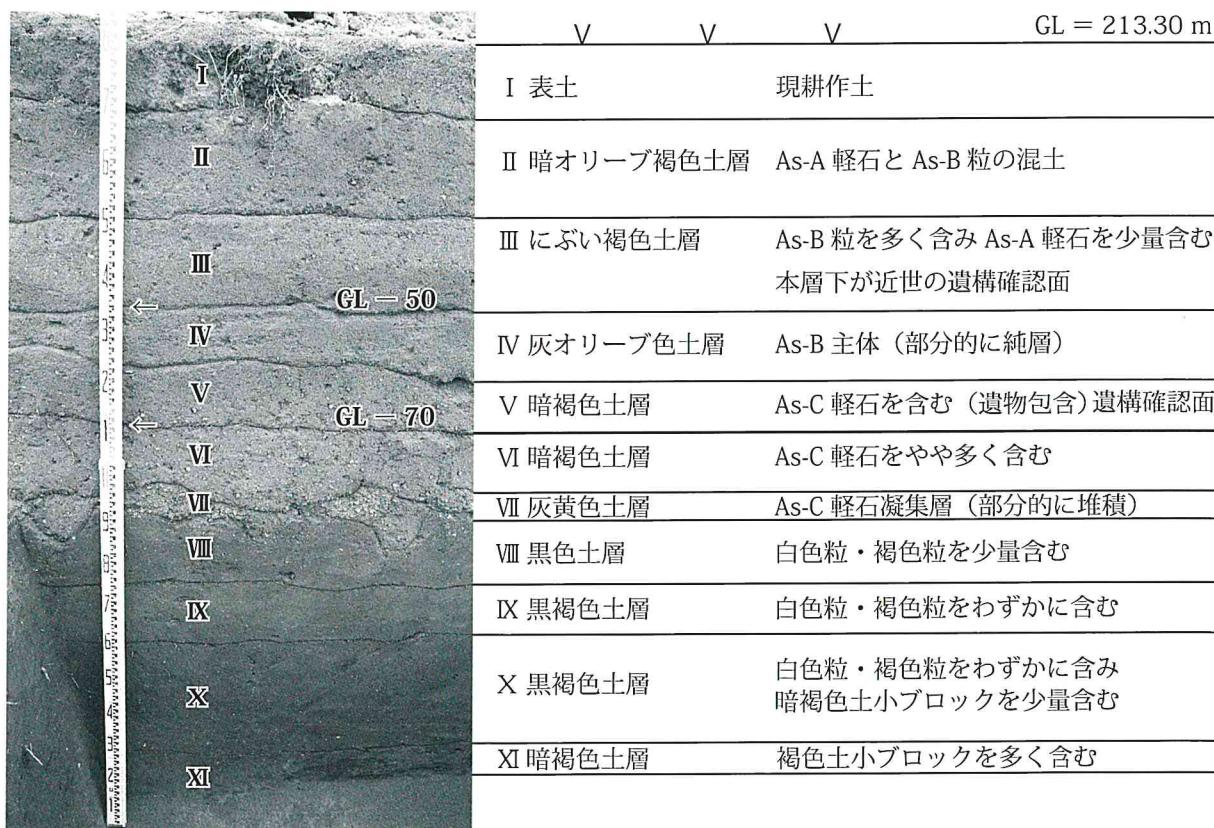
第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)



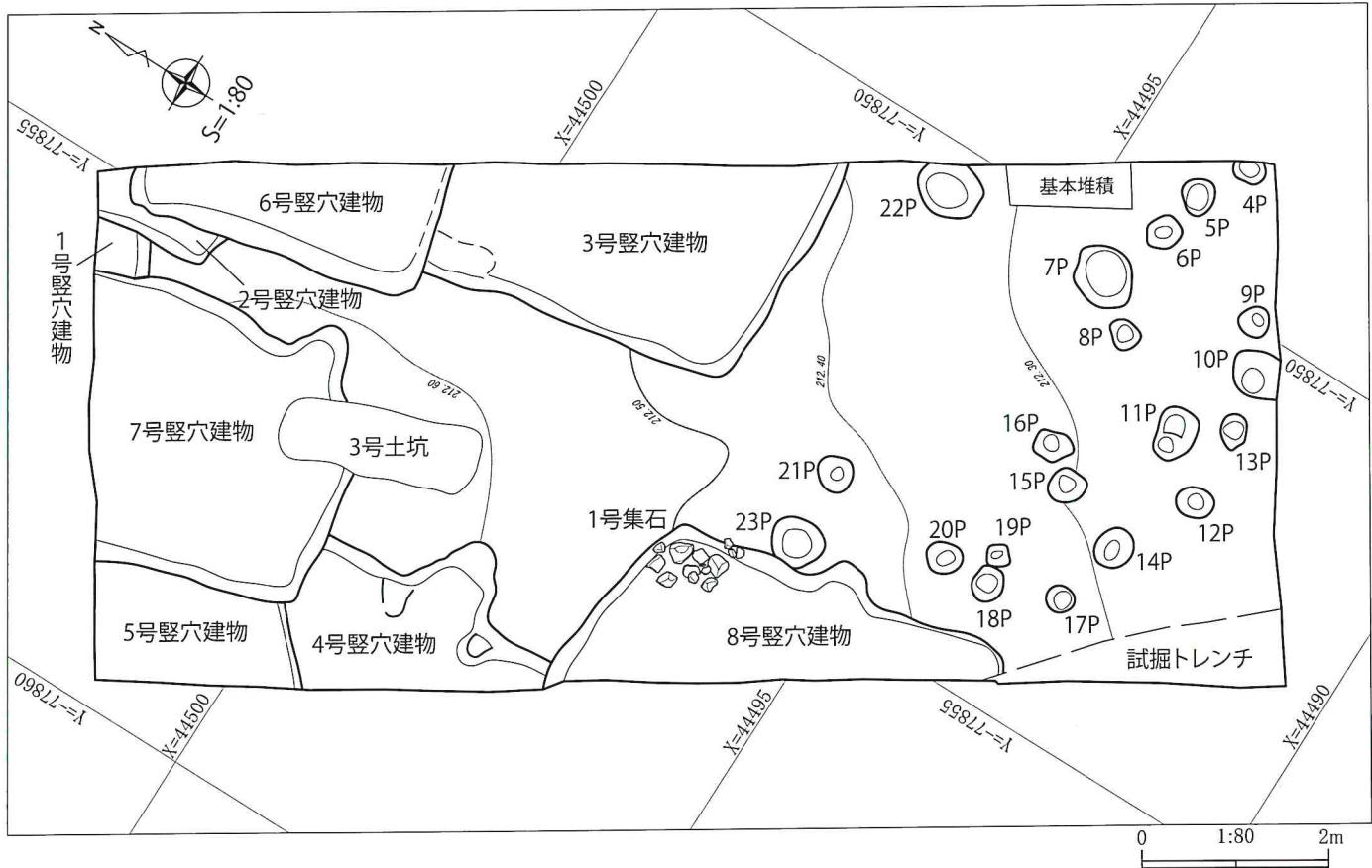
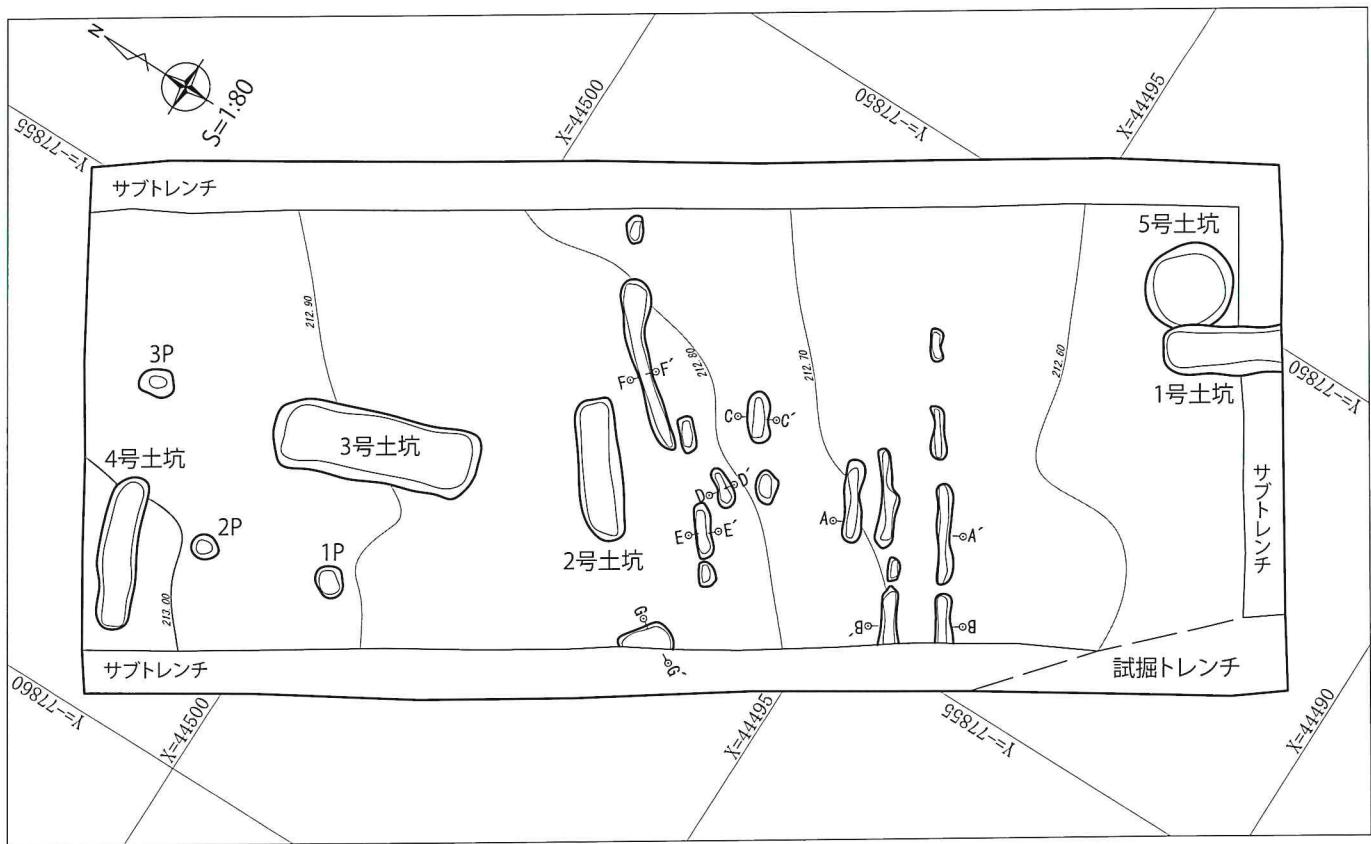
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

IV 基本堆積土層

I層は現表土で約5～10cm程堆積している。II層はAs-A軽石とAs-B粒の混土で、III層はAs-B粒を多く含み、As-A軽石を少量含む層である。IV層はAs-B粒主体の層で、部分的に純層として確認される。本層上にて近世の畠および土坑が検出された。V、VI層はAs-C軽石を多く含む層で、V層は遺物を包含する遺物包含層である。このV層下が遺構確認面となり、現地表からは約70cm下である。VII層はAs-C軽石主体で部分的に凝集層として認められる。VIII層は白色粒と褐色粒を少量含む黒色土で比較的硬く締まる。IX層はVIII層と同様だが、色調が若干明るい黒褐色である。X層は白色粒と褐色粒をわずかに含み、暗褐色土の小ブロックを少量含む。XI層は暗褐色土で非常に硬く締まり、白色粒、褐色土小ブロックを多く含む層である。



第3図 基本堆積土層 柱状図・写真 (←部が遺構確認面：1面GL-50cm・2面GL-70cm)



第4図 遺跡全体図 上：1面IV層上面・下：2面VI層上面 (1/80)

V 調査の成果

発掘調査の結果、As-A 粒が覆土に含まれる近世と考えられる畠跡と、平安時代の竪穴建物 8 軒、野外炉と考えられる集石遺構 1 基、土坑 5 基、ピット 23 基を検出した。基本堆積土層の V 層が遺物包含層となり、この V 層を除去して平安時代の遺構が確認された。調査区中央から南側に As-C 軽石を多く含む層が認められ、部分的に凝集層（基本堆積VII層）が確認される。VII層上面で畠状の遺構や土坑等になるか精査したが、規則性は認められず、掘り込みもない為、自然的な堆積と推測される。遺構確認面は緩やかに北西から南東方向に傾斜し、調査区内の南北での高低差は約 40cm である。

竪穴建物跡

1号竪穴建物

調査区北東にて検出された。南側一部分のみの検出の為、規模は不明である。確認面から床面までの深さは約 51cm である。2、7 号竪穴建物と重複しており、本遺構が一番古い。床面は平坦で若干硬化している。カマドおよび付帯施設は確認されなかった。掘り方は浅い。遺物は床面から No. 1 が出土し、覆土から土師器片が確認された。重複関係および出土した遺物から、帰属時期は 8 世紀代であると考えられる。

2号竪穴建物

調査区北東隅にて検出された。南西側一部分のみの検出の為、規模は不明である。確認面から床面までの深さは約 60cm である。1、6 号竪穴建物と重複関係にあり、1 号より新しく、6 号より古い。床面は平坦で若干硬化している。カマドおよび付帯施設は確認されなかった。掘り方は浅く平坦である。遺物は認められなかった。重複関係から帰属時期は 8 世紀中頃から 9 世紀前半と考えられる。

3号竪穴建物

調査区東側にて検出された。規模は南北 3.82m 以上、東西 2.28m 以上で、確認面から床面までの深さは約 50cm である。6 号竪穴建物と重複しており、本遺構の方が古い。床面は平坦で全体的に硬くしまっている。カマドは確認およびその他の施設は確認されなかった。北西隅部分の壁が崩落したと考えられ、黒色土の塊が床面に散乱している。掘り方は浅く不整形で、南西隅に土坑状の窪みが確認された。遺物は床面から No. 3、6 が、覆土から No. 4、5 が出土した。重複関係および出土した遺物から、帰属時期は 8 世紀中頃から後半と考えられる。

4号竪穴建物

調査区西側にて検出された。規模は南北 2.75m 以上、東西 1.56m 以上で、確認面から床面までの深さは約 45cm である。5、7、8 号竪穴建物と重複しており、本遺構が一番古い。床面は硬くしまっており、貼り床されている。特にカマド前は焼土と灰を含む褐色土が互層状に約 6cm 堆積している。カマドは焚口 65cm、奥行 122cm、燃焼部幅 68cm で、袖から側壁は礫を芯材として黄褐色粘土を被覆して構築される。燃焼部は被熱の為赤く焼土化し底面には灰の堆積が認められる。貯蔵穴および柱穴等は確認されなかった。掘り方は浅く不整形でカマド前が若干土坑状に窪む。遺物は床面から No. 8、10 とカマド掘り方から No. 7、9 が出土した。重複関係および出土した遺物から帰属時期は 8 世紀後半頃であると考えられる。

5号竪穴建物

調査区北西隅にて検出された。規模は南北 2.6m 以上、東西 1.33m 以上で、確認面から床面までの深さは約 48cm である。4、7 号竪穴建物と重複しており、4 号竪穴建物より新しく、7 号竪穴建物より古い。床面は平坦で全体的に硬くしまっている。カマドおよびその他の施設は確認されなかった。掘り方は浅く不整形である。遺物は床面から No. 11、12 が出土した。重複関係および出土した遺物から、帰属時期は 8 世紀後半から 9 世紀前半頃と考えられる。

6号竪穴建物

調査区東側にて検出された。規模は南北 3.28m、東西 1.46m 以上で、確認面から床面までの深さは約 60cm である。2、3 号竪穴建物と重複しており、本遺構が一番新しい。床面は平坦で全体的に硬くしまっている。カマドおよびその他の施設は確認されなかった。掘り方は浅く平坦である。遺物は覆土から No. 2 が出土した。重複関係および出土した遺物から、帰属時期は 9 世紀中頃と考えられる。

7号竪穴建物

調査区北側にて検出された。規模は南北3.4m以上、東西3.1mで、確認面から床面までの深さは約35cmである。1、4、5号竪穴建物と重複しており、本遺構が一番新しい。床面は硬くしまっており、カマドの構築石材が散乱し、遺物も多く認められる。カマドは焚口58cm、奥行65cm、燃焼部幅40cmで、袖から奥壁まで礫を芯材として褐色土と黄褐色粘土を被覆して構築される。右側の袖部分から側壁部分は崩されている。燃焼部は被熱の為赤く焼土化し底面には灰の堆積が認められる。貯蔵穴および柱穴等は確認されなかった。掘方は浅く不整形で西側が若干深く、中央付近に土坑が検出された。遺物は床面からNo.14～20、22～26が、カマドからNo.13、21が出土した。重複関係および出土した遺物から帰属時期は9世紀中頃であると考えられる。

8号竪穴建物

調査区南西側にて検出された。規模は南北3.87m、東西1.97m以上で、確認面から床面までの深さは約38cmである。4号竪穴建物、集石遺構と重複しており、4号竪穴建物より新しく集石より古い。床面は硬くしまっており、カマド前面部分が特に硬い。カマドは焚口45cm、奥行65cm、燃焼部幅40cmと推測される。袖から側壁は礫を芯材として褐色土と黄褐色粘土を被覆して構築されるが、ほとんどが崩落しており不明瞭である。支脚と推測される2石の礫が立った状態で検出され、羽釜が7固体潰れた状態で出土した。貯蔵穴および柱穴等は確認されなかった。掘方は浅く不整形で、中央付近に土坑と北隅にピットが検出された。遺物は床面からNo.27とカマドからNo.28～34が出土した。重複関係および出土した遺物から帰属時期は10世紀前半から中頃であると考えられる。

1号集石遺構

調査区中央西寄りにて検出された。基本堆積IV層直下での検出である。8号竪穴建物と重複しており、本遺構の方が新しい。礫は被熱を受け赤く変色したものが多く、No.36の羽釜とNo.38の甌の破片が石と重なり合うように出土した。羽釜は計2個体分でNo.35は小破片である。明確な掘り込みは認められないが、石を抜き、遺物を除去すると輪の羽口（No.39）が立った状態で検出され、浅い土坑状の掘り方となった。当初、竪穴建物に伴うカマド施設と考えたが、住居のプランが確認されず、硬化面等が認められない為、遺物包含層（V層）中にある単独の遺構であると考えられる。周辺の土は被熱を受けておらず、焼土粒や炭化物、灰等の火を焚いた痕跡は認められないが、野外炉的な遺構の可能性が推測される。出土した遺物から帰属時期は10世紀後半頃と考えられる。

畠

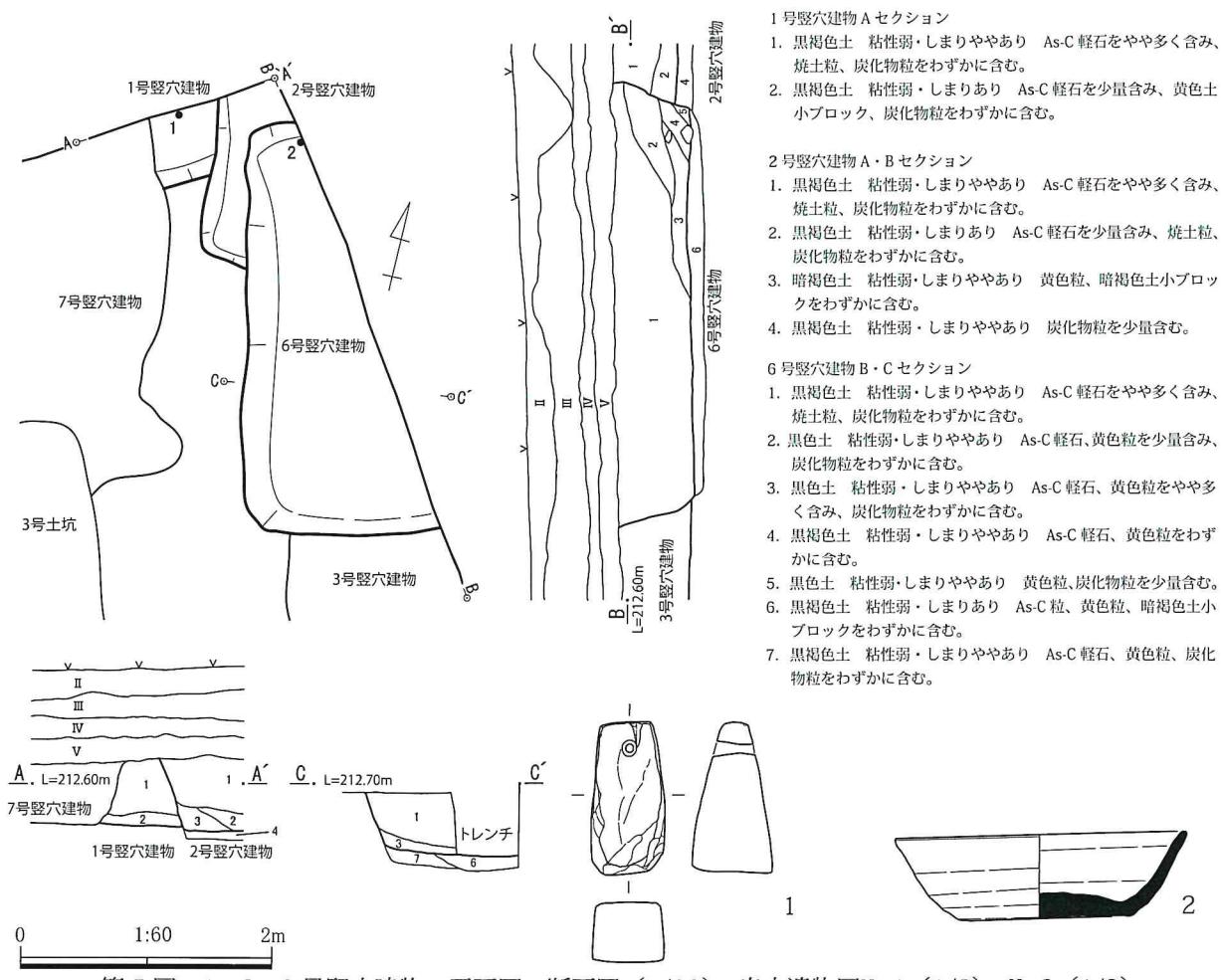
調査区中央やや南よりで検出された。主軸方位はN-57°-Eで、およそ6条の耕作痕と推測される畠溝を確認した。畠溝の幅は12～20cm程で、深さは8cm前後、各溝の間隔は約20cmから45cmである。覆土にはAs-A軽石が多く含まれ、炭化物も若干含まれる。鋤先痕等の工具痕は確認出来ず、遺物も検出されなかった。帰属時期は近世以降と考えられる。

土坑

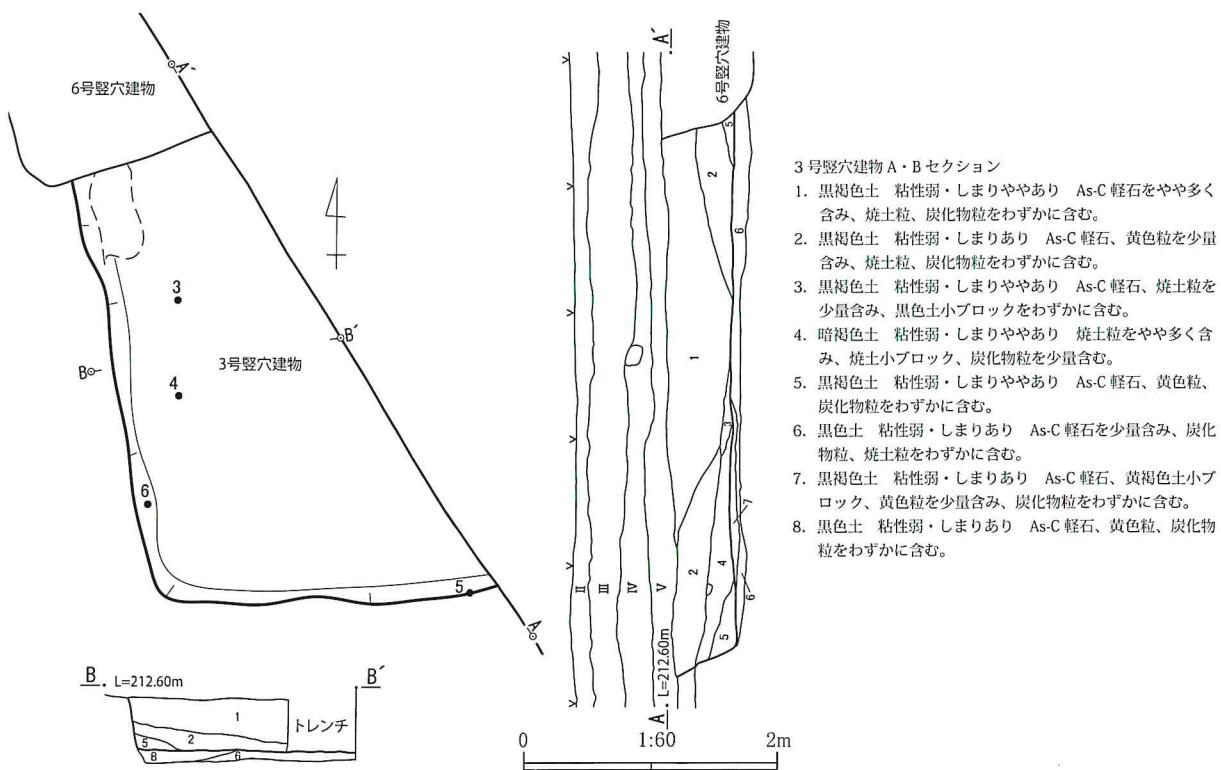
調査区全体に散存して検出された。各土坑とも1面での検出で、覆土にAs-A軽石およびAs-B粒が含まれる。1、2、4号土坑は浅く、覆土が畠跡と酷似する為、耕作に関係した土坑の可能性が推測される。3号土坑は確認面から底面まで65cmと比較的深く、底面は平坦で、丁寧な箱状の掘り方である。5号土坑は径95cmのほぼ円形で、確認面から底面までは浅く皿状の掘り方である。各土坑の帰属時期は近世以降と考えられる。

ピット

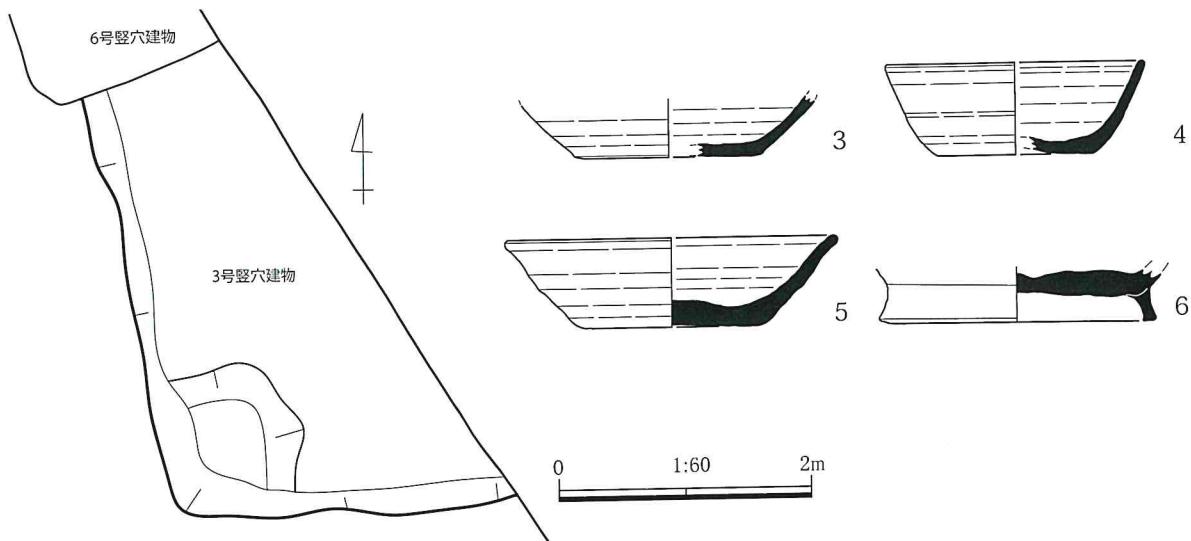
調査区北西に3基、南側に20基が検出された。南側では比較的まとまった状態で確認された為、掘立柱建物跡の存在が推測されるが調査区が狭い為、現地では建物としては認識できなかった。1～3号ピットは1面での検出で、覆土にAs-A軽石が含まれる。4～23号ピットは2面での検出で覆土にはAs-A軽石およびAs-B粒は含まれない。各ピットとも底部に礫等は確認されなかった。



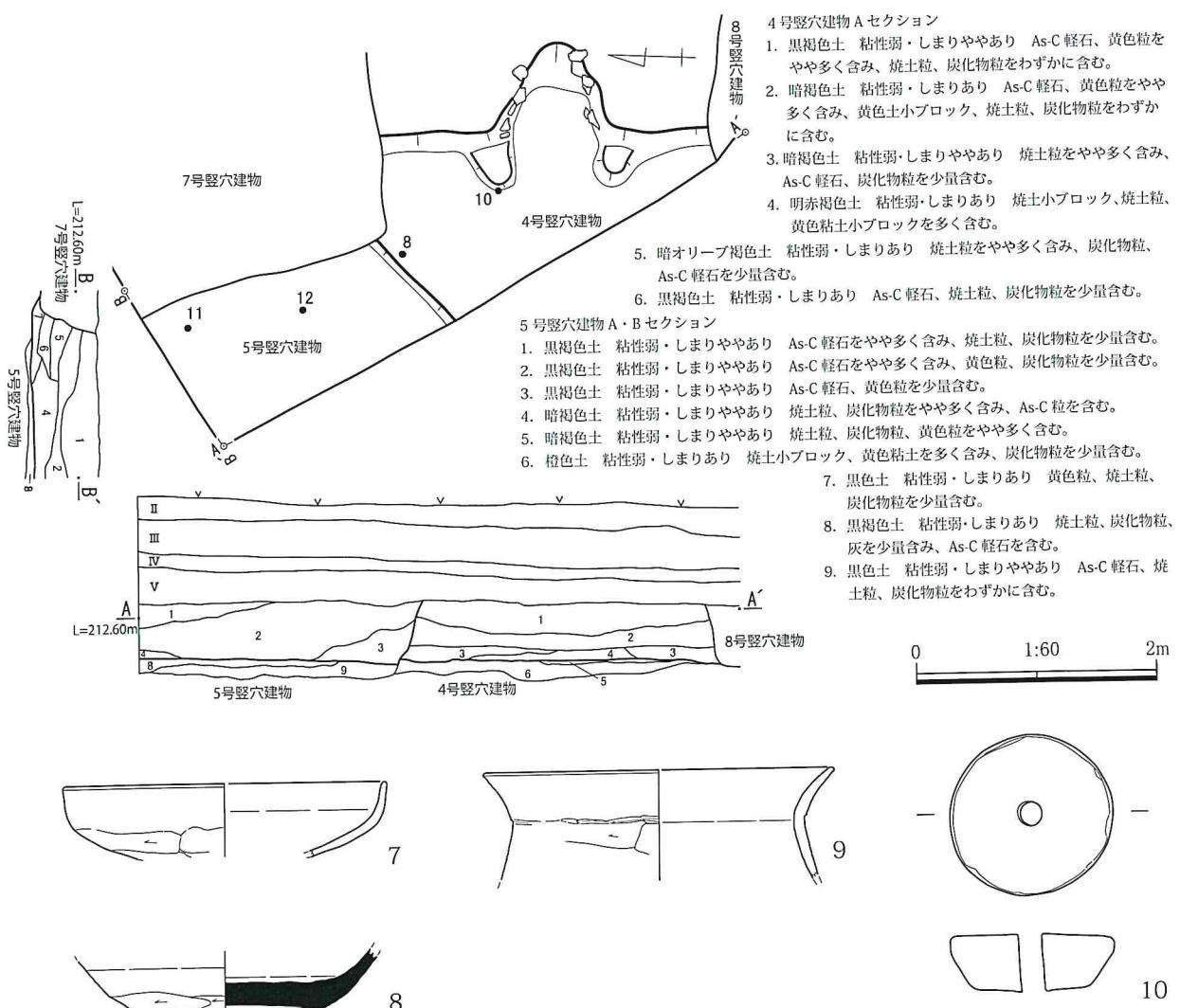
第5図 1・2・6号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60) 出土遺物図No.1 (1/2) No.2 (1/3)



第6図 3号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60)

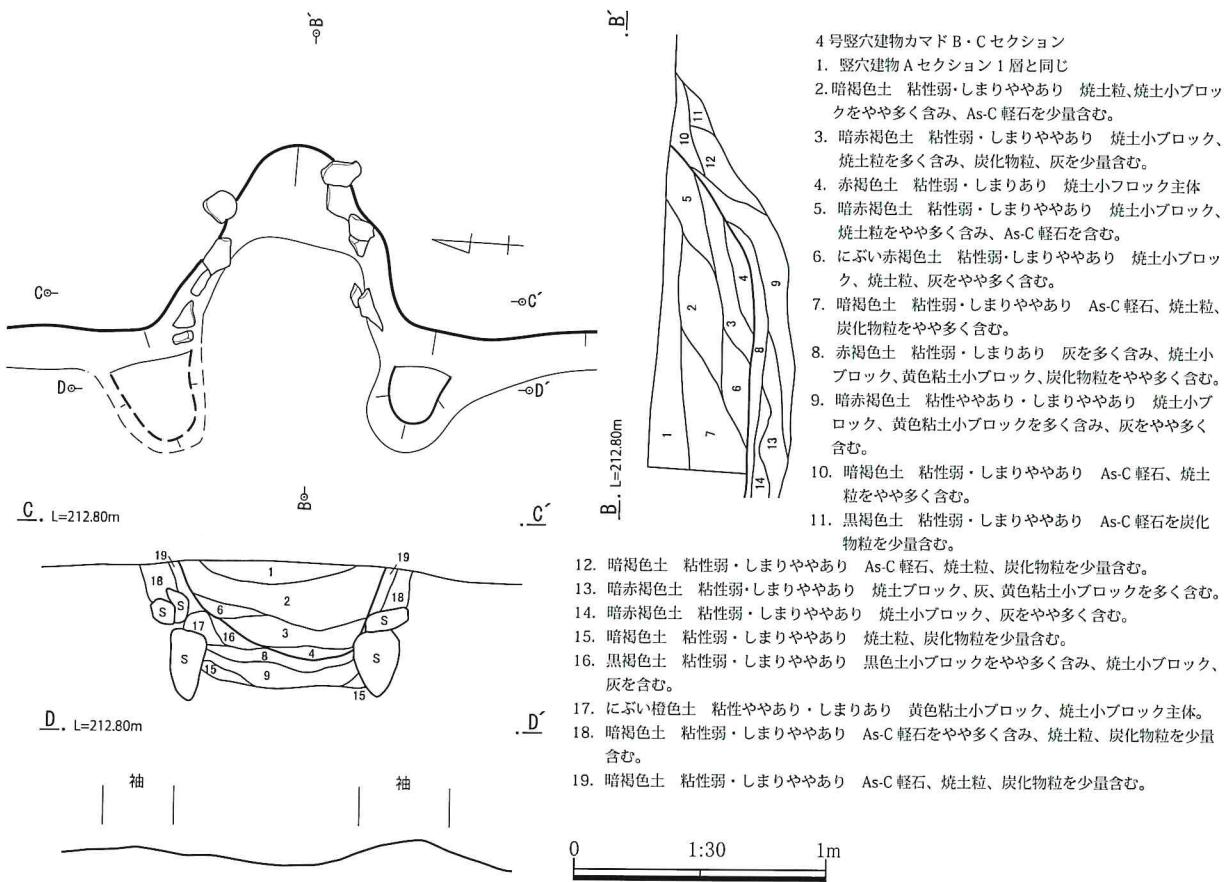


第7図 3号竪穴建物 掘り方平面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)

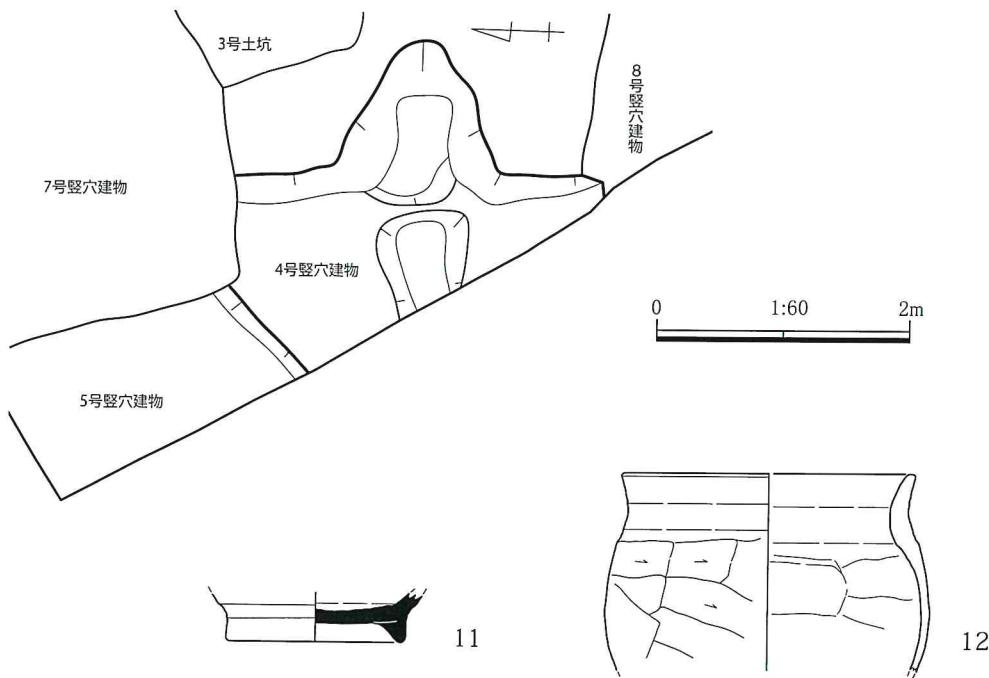


第8図 4・5号竪穴建物 平面図・断面図 (1/60)

4号竪穴建物 出土遺物図 №.7・8 (1/3) №.9 (1/4) №.10 (1/2)



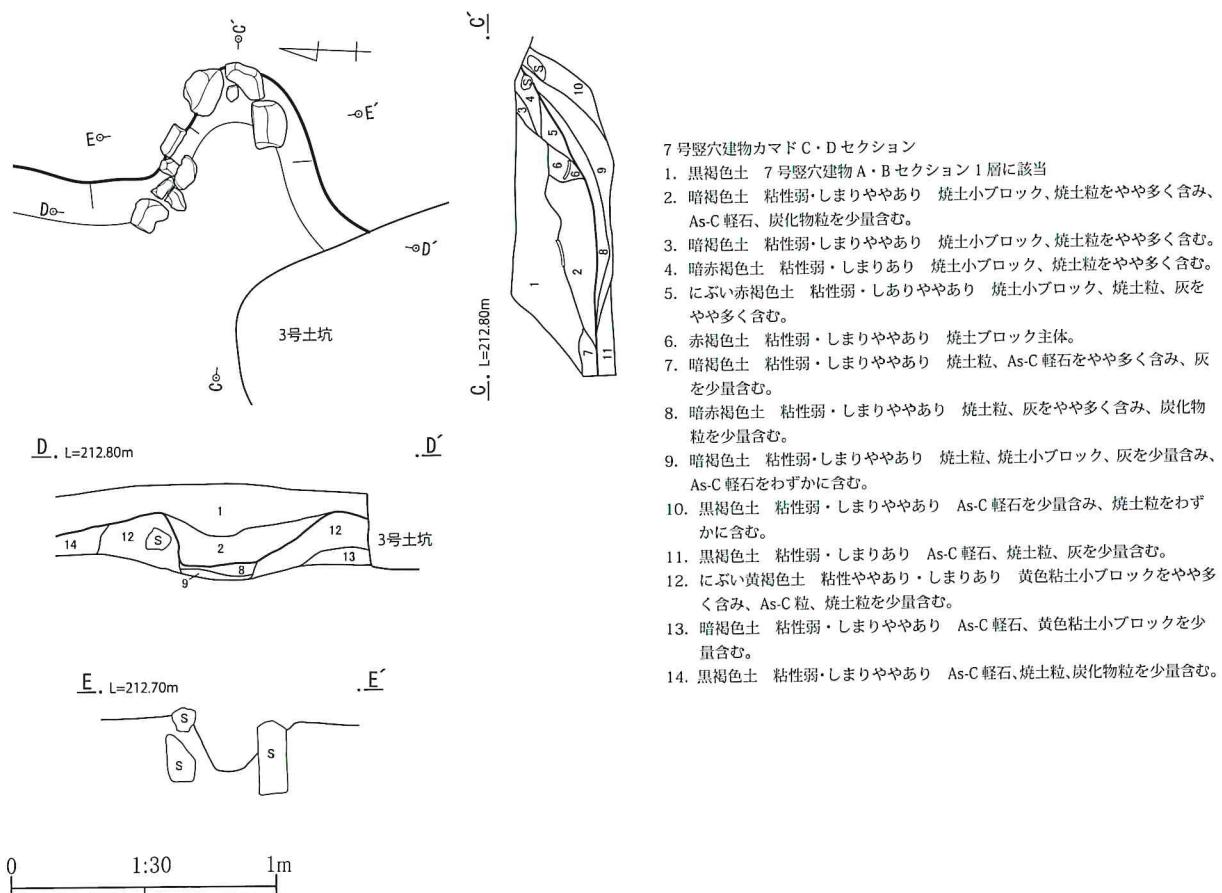
第9図 4号堅穴建物 カマド 平面図・断面図・エレベーション図 (1/30)



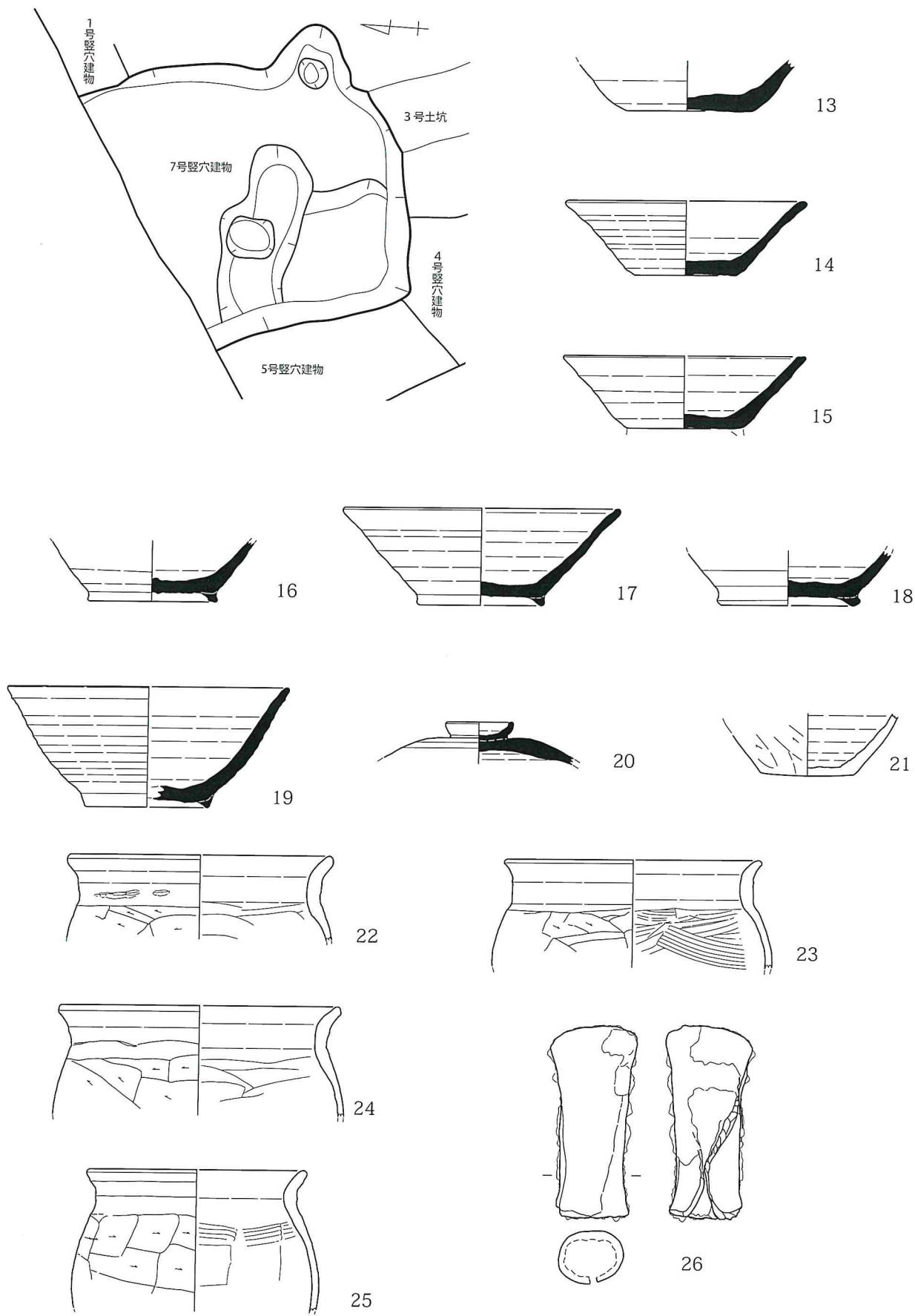
第10図 4・5号堅穴建物 掘り方 平面図 (1/60) 5号堅穴建物 出土遺物図 №.11 (1/3) №.12 (1/4)



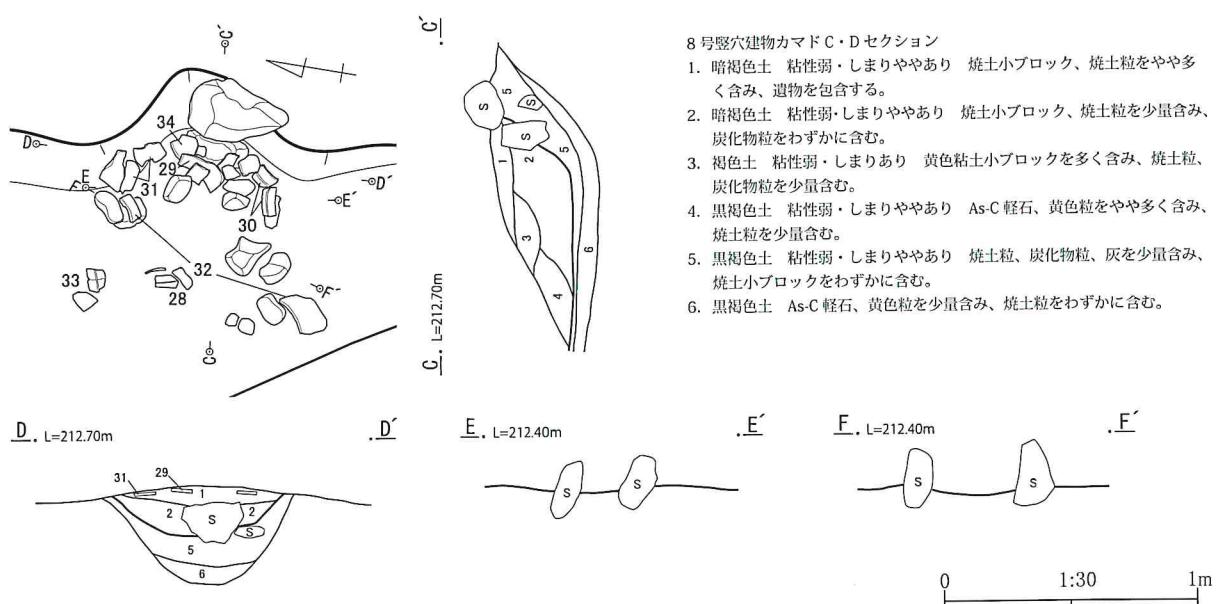
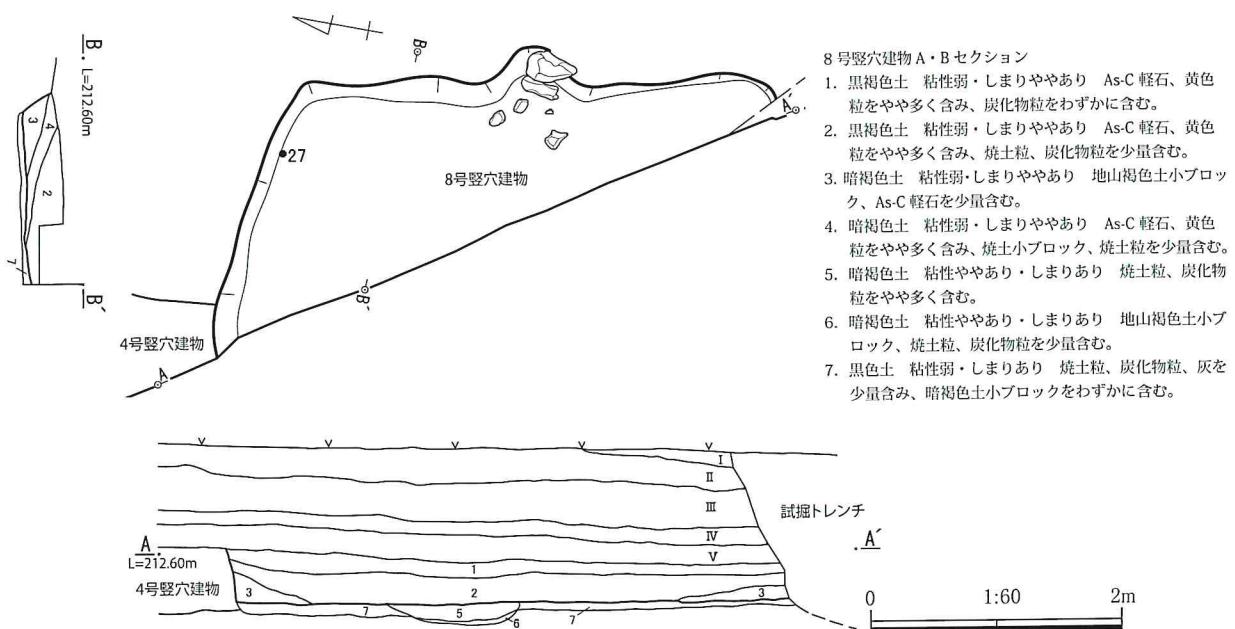
第11図 7号竖穴建物 平面図・断面図 (1/60)



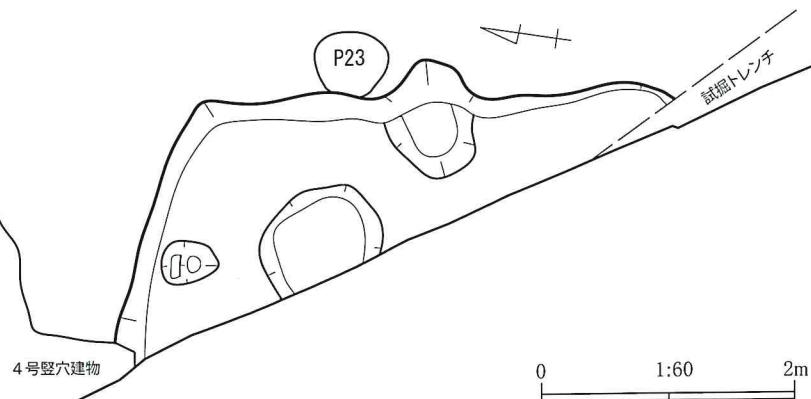
第12図 7号竖穴建物 カマド 平面図・断面図 (1/30)



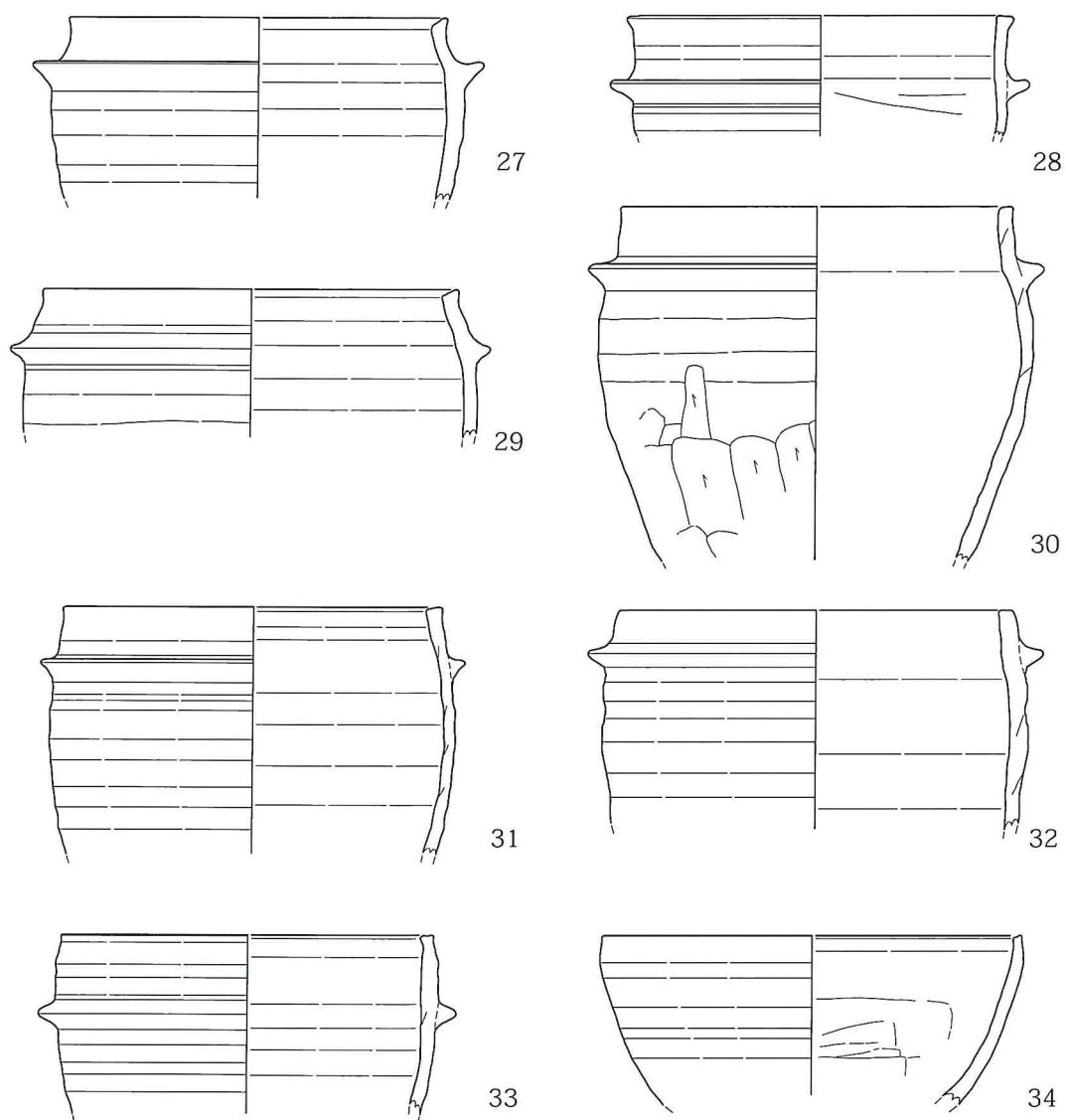
第13図 7号竖穴建物 掘り方 平面図 出土遺物図 No.13～20・26 (1/3) No.21～25 (1/4)



第14図 8号竖穴建物 平面図・断面図 (1/60) カマド平面図・断面図・エレベーション図 (1/30)

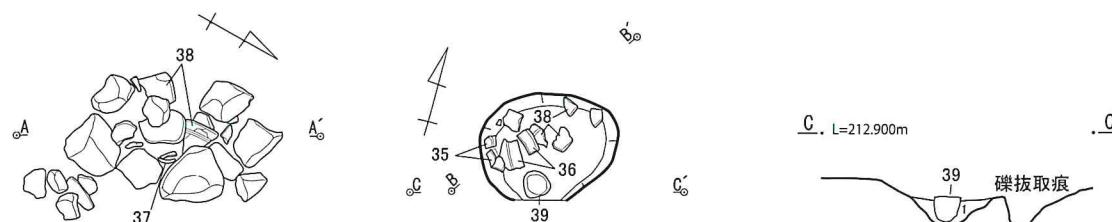


第15図 8号竖穴建物 掘り方 平面図 (1/60)



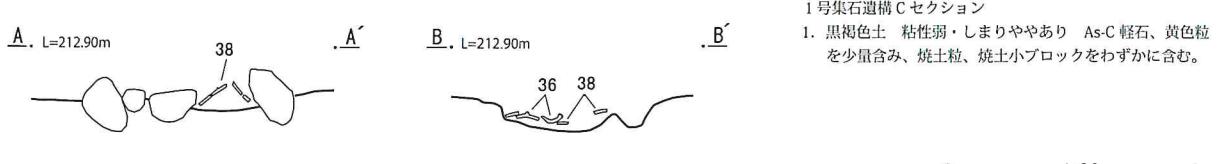
第16図 8号竪穴建物 出土遺物図 (1/4)

集積遺構

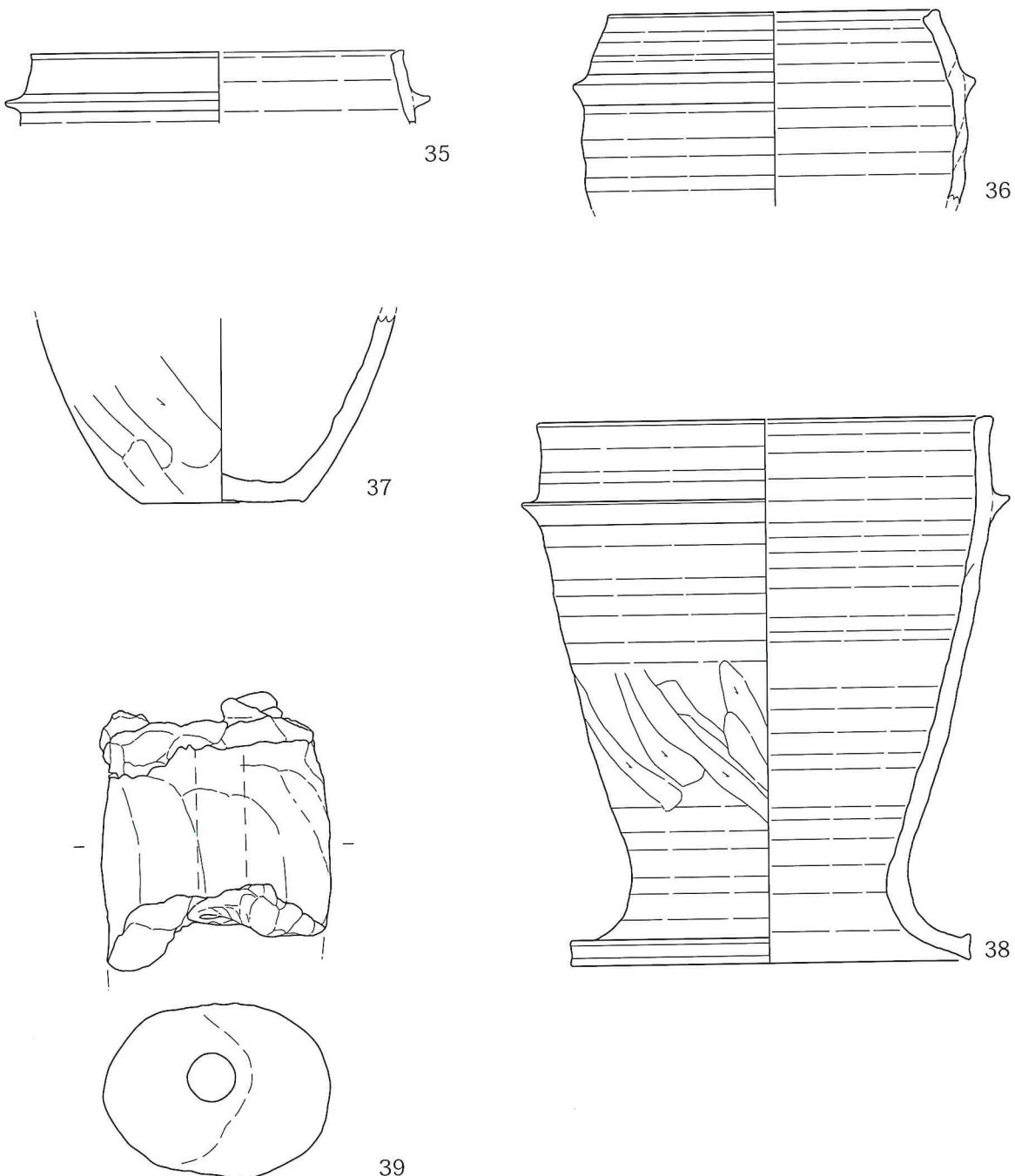


1号集石遺構確認面

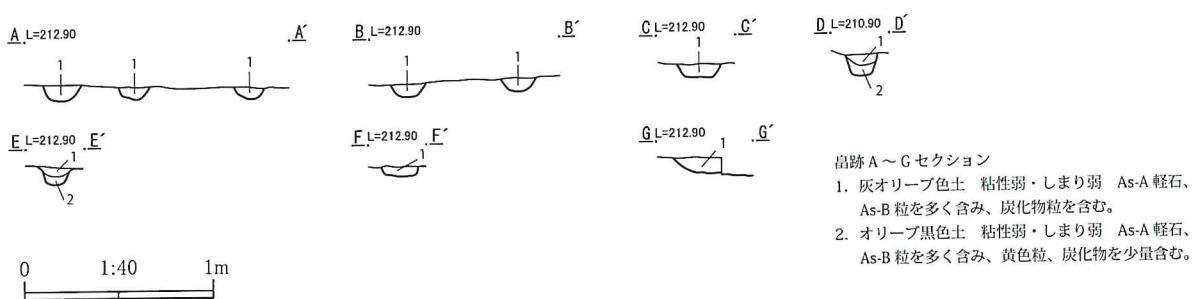
1号集石遺構礫除去後



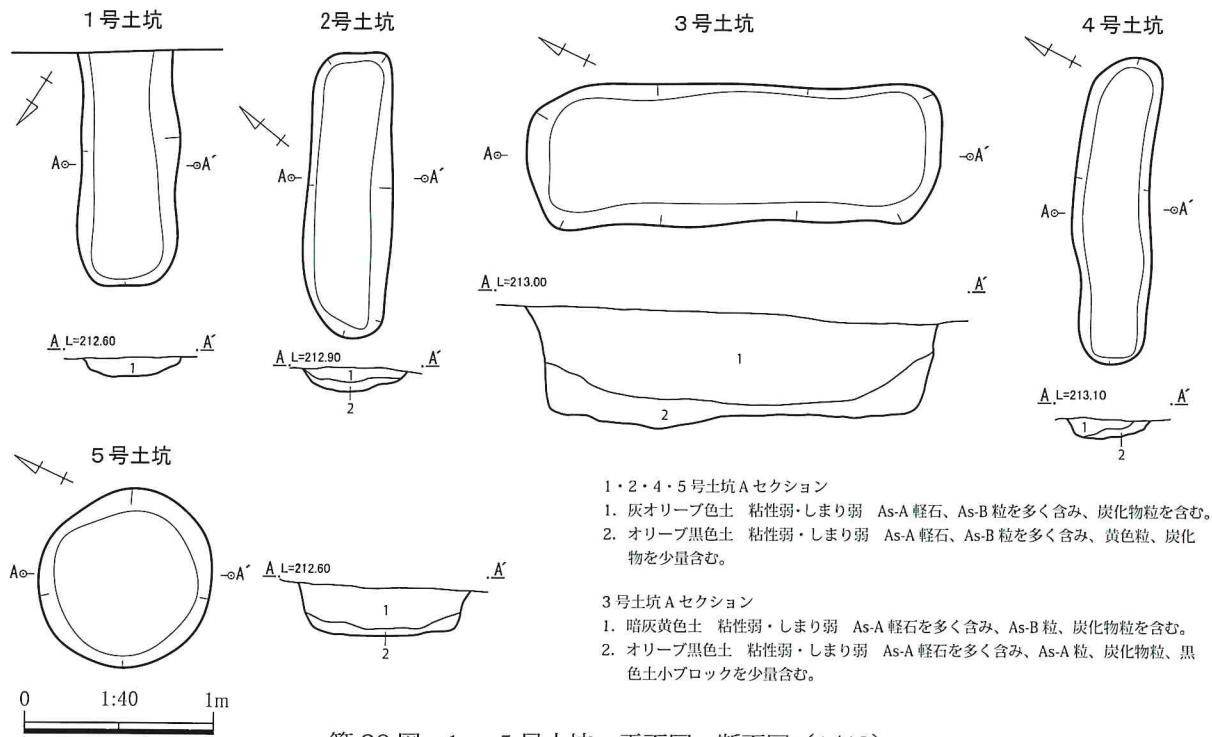
第17図 1号集石遺構 平面図・断面図・エレベーション図 (1/30)



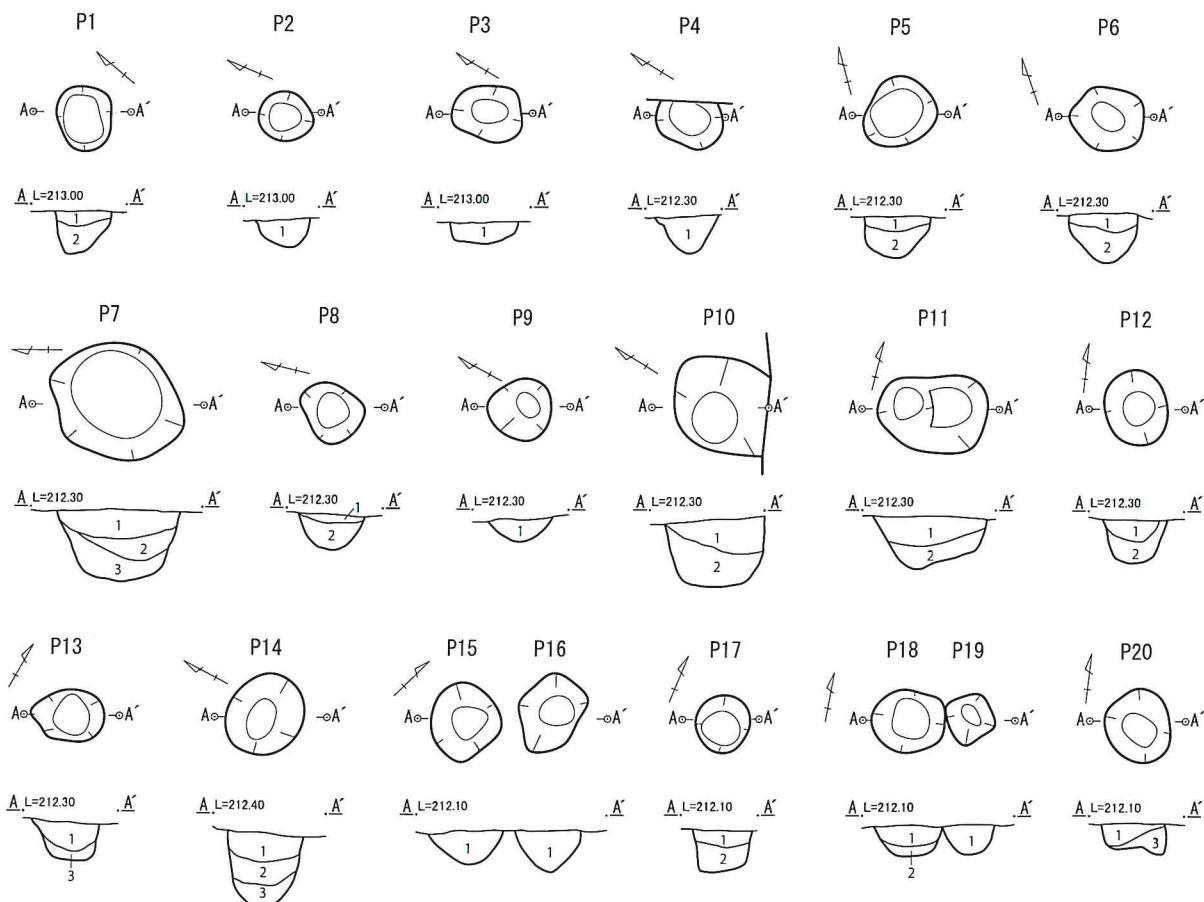
第18図 1号集石遺構 出土遺物図 №35～38 (1/4) №39 (1/3)



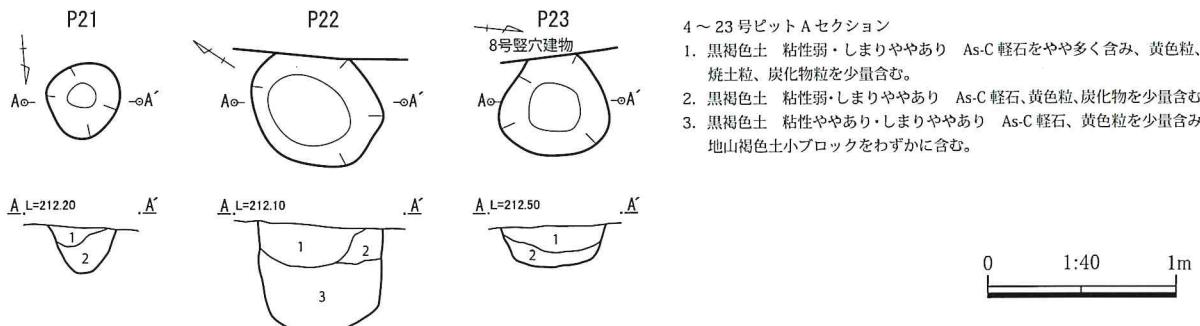
第19図 島跡 断面図 (1/40)



第20図 1～5号土坑 平面図・断面図 (1/40)



第21図 1～20号ピット 平面図・断面図 (1/40)



第22図 21～23号ピット 平面図・断面図 (1/40)

第1表 土坑・ピット計測表 (単位cm) +は以上 重複：新>古

遺構名	平面形状	断面形状	径	長軸	短軸	深さ	重複	覆土	備考
1号土坑	隅丸長方形	皿状	—	124+	51	10		As-A粒とAs-B粒の混土	
2号土坑	長楕円形	皿状	—	152	47	13		As-A粒とAs-B粒の混土	
3号土坑	隅丸長方形	箱状	—	219	77	62	>7号竪穴建物	As-A粒とAs-B粒の混土	
4号土坑	長楕円形	皿状	—	164	42	11		As-A粒とAs-B粒の混土	
5号土坑	円形	逆台形状	95	—	—	26	<1号土坑	As-A粒とAs-B粒の混土	
1号ピット	楕円形	U字状	—	37	28	22		As-A粒とAs-B粒の混土	
2号ピット	円形	U字状	30	—	—	14		As-A粒とAs-B粒の混土	
3号ピット	楕円形	箱状	—	37	29	10		As-A粒とAs-B粒の混土	
4号ピット	楕円形	U字状	—	37	24+	19		As-C粒と黄色粒の混土	
5号ピット	不整円形	皿状	—	41	35	22		As-C粒と黄色粒の混土	
6号ピット	不整円形	U字状	30	—	—	—		As-C粒と黄色粒の混土	
7号ピット	楕円形	U字状	—	76	61	36		As-C粒と黄色粒の混土	
8号ピット	不整円形	U字状	—	36	30	20		As-C粒と黄色粒の混土	
9号ピット	円形	皿状	31	—	—	11		As-C粒と黄色粒の混土	
10号ピット	楕円形	U字状	—	52+	50	36		As-C粒と黄色粒の混土	
11号ピット	楕円形	段状	—	59	41	28		As-C粒と黄色粒の混土	
12号ピット	楕円形	U字状	—	31	40	23		As-C粒と黄色粒の混土	
13号ピット	楕円形	箱状	—	39	27	21		As-C粒と黄色粒の混土	
14号ピット	楕円形	U字状	—	45	40	41		As-C粒と黄色粒の混土	
15号ピット	不整円形	皿状	—	41	37	18		As-C粒と黄色粒の混土	
16号ピット	不整楕円形	U字状	—	44	32	22		As-C粒と黄色粒の混土	
17号ピット	円形	箱状	31	—	—	21		As-C粒と黄色粒の混土	
18号ピット	楕円形	皿状	—	39	34	17		As-C粒と黄色粒の混土	
19号ピット	方形	U字状	—	22	21	16		As-C粒と黄色粒の混土	
20号ピット	不整円形	段状	38	—	—	18		As-C粒と黄色粒の混土	
21号ピット	不整円形	U字状	40	—	—	24		As-C粒と黄色粒の混土	
22号ピット	楕円形	U字状	—	72	61+	57		As-C粒と黄色粒の混土	
23号ピット	不整円形	皿状	55	—	—	22	<8号竪穴建物	As-C粒と黄色粒の混土	

第2表 出土遺物 遺物観察表 (単位:cm)

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・ <残高>	整形・調整・文様等	胎土	焼成(質感) 色
1	石製品 提砥	1号竪穴建物 床面	最長: 6.1 最厚: 3.2 重: 74g	上端部に径4.5mmの穿孔 側面全4面とも使用 底面にも使用痕あり	石材: 流紋岩	暗オリーブ灰色
2	須恵器 壺	6号竪穴建物 覆土	11.6・ 6.9 3.5	外面: ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り(右) 内面: ロクロナデ	細砂粒・黒色粒	良好(硬質) 灰色
3	須恵器 壺	3号竪穴建物 床面	—・ 7.5 <2.4>	外面: ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ調整 内面: ロクロナデ	細砂粒・黒色粒	並(硬質) 灰色
4	須恵器 壺	3号竪穴建物 覆土	10.3・ 6.1 <3.7>	外面: ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ調整 内面: ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黒色粒	並(硬質) 暗青灰色
5	須恵器 壺	3号竪穴建物 覆土	13.2・ 6.2 3.6	外面: ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り(右)	細砂粒・白色粒	並(やや軟質) 灰色
6	須恵器 盤か?	3号竪穴建物 床面	—・ 11.0 <2.2>	外面: ロクロ整形 ロクロナデ底部回転ヘラ切り後ヘラナデ 貼付け高台 内面: ロクロナデ	極細砂粒・白色粒	良好(硬質) 青灰色
7	土師器 壺	4号竪穴建物 カマド覆土	13.5・ — <3.1>	外面: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面: 口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒	並(やや軟質) 橙色
8	須恵器 壺	4号竪穴建物 覆土	—・ 2.5 <2.5>	外面: ロクロ整形 ロクロナデ 下端部回転ヘラ削り 底部回転糸切り後未調整 内面: ロクロナデ	細砂粒・黑色粒	並(やや軟質) 灰白色
9	土師器 甕	4号竪穴建物 カマド掘方	17.6・ <6.2>	外面: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラ削り 内面: 口縁部ヨコナデ 体部ナデ	細砂粒・白色粒	並(やや軟質) 橙色
10	石製品 紡錘車	4号竪穴建物 カマド前方床面	径: 4.5 厚: 1.6 重: 55g	中央に径7.5cmの穿孔 縁面部の右角度35°・左31° 縁面部回転に伴う水平方向の線傷あり	石材: 滑石	暗緑灰色

番号	種別 器種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土	焼成（質感） 色
11	須恵器 高台付环	5号竪穴建物 床面	— · 7.1 〈1.9〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後貼付け高台 内面：口縁部ヨコナデ	極細砂粒・白色粒	良好（硬質）灰 白色
12	土師器 小型甕	5号竪穴建物 床面	11.6 · — 〈7.9〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部横～斜め方向のヘラ削り 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好（硬質） 暗赤褐色
13	須恵器 环	7号竪穴建物 カマド	— · 6.6 〈2.7〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り後（左） 内面：ロクロナデ	細砂粒・黑色粒	並（やや軟質） 灰色
14	須恵器 环	7号竪穴建物 床面	13.0 · 5.4 4	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り（左） 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黑色粒	並（やや軟質） 灰白色
15	須恵器 高台付环	7号竪穴建物 床面	13.0 · 6.3 3.9	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り（左か？）後貼付け高台（高 台部欠）大部下半若干煤の付着あり 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒	並（やや軟質） オリーブ褐色
16	須恵器 高台付环	7号竪穴建物 床面	— · 6.9 〈3.3〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り後（左）貼付け高台 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒	不良（軟質） 灰白色
17	須恵器 高台付环	7号竪穴建物 床面	14.8 · 6.8 5.2	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り後（左）貼付け高台 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黑色粒	並（やや軟質） 灰白色
18	須恵器 高台付环	7号竪穴建物 床面	— · 7.6 〈3.0〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り後貼付け高台 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒	並（やや軟質） 褐灰色
19	須恵器 塊	7号竪穴建物 床面	15.0 · 6.4 6.5	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 底部回転糸切り後貼付け高台 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒	並（やや軟質） 灰白色
20	須恵器 蓋	7号竪穴建物 床面	摘要：3.6 残高：2.3	外面：ロクロ整形 天井部上ヘラ削り 貼付け摘要 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒	並（やや硬質） 灰色
21	須恵器 羽金か？	7号竪穴建物 カマド	— · 6.6 〈4.5〉	外面：体部下斜め方向のヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ 内面：ロクロナデ	細砂粒・黑色粒	良好（やや軟質） にぶい褐色
22	土師器 甕	7号竪穴建物 床面	18.9 · — 〈6.0〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部横～斜め方向のヘラ削り 口縁部コの字状 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・黑色粒 雲母粒・角閃石粒	良好 にぶい赤褐色
23	土師器 甕	7号竪穴建物 床面	18.3 · — 〈7.8〉	外面：口縁部ヨコナデ 斜め方向のヘラ削り 口縁部コの字状 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ（条痕状）	細砂粒・白色粒 雲母粒・角閃石粒	良好 にぶい赤褐色
24	土師器 甕	7号竪穴建物 床面	21.0 · — 〈7.9〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部横～斜め方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好（やや軟質） にぶい赤褐色
25	土師器 甕	7号竪穴建物 床面	15.7 · — 〈10.1〉	外面：口縁部ヨコナデ 体部横方向のヘラ削り 内面：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	並（やや軟質） にぶい赤褐色
26	鉄製品 鉄斧	7号竪穴建物 床面	最長：10.4 最短：3.5 重：199g	差し込み部は5～7mmの元板を湾曲させ成形 差し込み口楕円形 内径・長：2.7cm 短：1.9cm 刃部幅4.6cm・刃部先端約3mm厚		
27	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 床面	20.2 · — 〈9.7〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ	極細砂粒・白色粒	並（やや軟質） 橙色
28	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 床面	20.6 · — 〈6.5〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 黑色粒	並（やや軟質） 橙色
29	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド	22.1 · — 〈7.9〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	並（やや軟質） 橙色
30	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド	21.1 · — 〈20.2〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒・小礫	並（やや軟質） にぶい赤褐色
31	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 カマド	20.2 · — 〈13.2〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ コゲ付着あり	細砂粒・黑色粒 雲母粒・小礫	並（やや軟質） 橙色
32	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 床面	21.0 · — 〈11.7〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	並（やや軟質） 橙
33	須恵器 羽釜	8号竪穴建物 床面	19.8 · — 〈9.6〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒	良好（硬質） 灰色
34	須恵器 甕	8号竪穴建物 カマド	22.3 · — 〈8.6〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 内面：ロクロナデ 体部下ヘラナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	並（やや硬質） 橙色
35	須恵器 羽釜	集石 覆土	22.7 · — 〈4.2〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け	細砂粒・黑色粒 小礫	並（やや軟質） にぶい黄褐色
36	須恵器 羽釜	集石 覆土	20.1 · — 〈11.8〉	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 頸部貼付け 口縁部内湾 内面：ロクロナデ	細砂粒・黑色粒 雲母粒・角閃石粒	並（やや硬質） にぶい黄橙色
37	須恵器 羽釜か？	集石 覆土	— · 7.3 〈8.5〉	外面：ロクロ整形 斜め方向のヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り 内面：ロクロナデ	細砂粒・白色粒 雲母粒	良好（硬質） にぶい褐色
38	須恵器 甕	集石 覆土	27.8 · 24.7 33.1	外面：ロクロ整形 ロクロナデ 体部下斜め方向のヘラ削り 脚部ロクロナ デ 頸部貼付け 内面：ロクロナデ	細砂粒・黑色粒 雲母粒	良好（やや軟質） 灰色
39	輪 羽口	集石 埋設	残長：12.6 孔径：22.0	長軸10.3cm・短軸7.9cmの楕円形 板状粘土を棒に巻きつけ成形後ヘラ削り 炉接合基部は熔解物（鉄滓）付着 輪連結部は欠損	第19図：PL9 参照	橙色

VI 総括

今回の調査では、78m²という極狭い調査区において、8世紀中頃から10世紀中頃の竪穴建物が8軒検出された。特に北側では重複し密集した状態である為、集落は本遺跡の北側に広がっているものと推測される。また、南側ではピットが密集している為、調査区内では掘立柱建物跡は確認されなかったが、南側にはその存在が示唆される。調査対象地は、現地表から約60cm下にて、遺物包含層（V層）が形成されており、各竪穴建物跡はこの層を除去しないと確認されなかった。包含層の形成時期は、V層中にて集石遺構が検出され、この集石遺構が形成された10世紀後半頃に周辺一帯が何らかの土地改良が施されたものと考えられる。遺構の在り方から本遺跡周辺は8世紀中頃から9世紀以降、急速に開発された地域であると推測される。

写 真 図 版



調査区全景 南東から



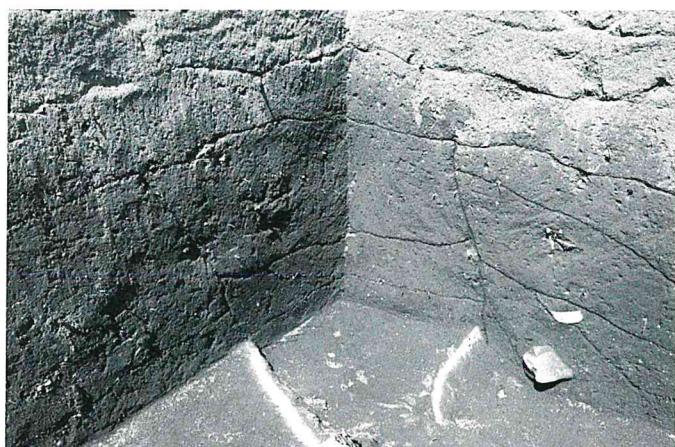
調査区全景 2面VI層上面 垂直 上が北東



1・2号竪穴建物A セクション 南東から



1号竪穴建物No. 1 出土状況 南東から



1・2・6号竪穴建物B セクション 南から



1・2号竪穴建物 全景 東から



3号竪穴建物A・B セクション 南西から



3号竪穴建物 遺物出土状況全景 西から



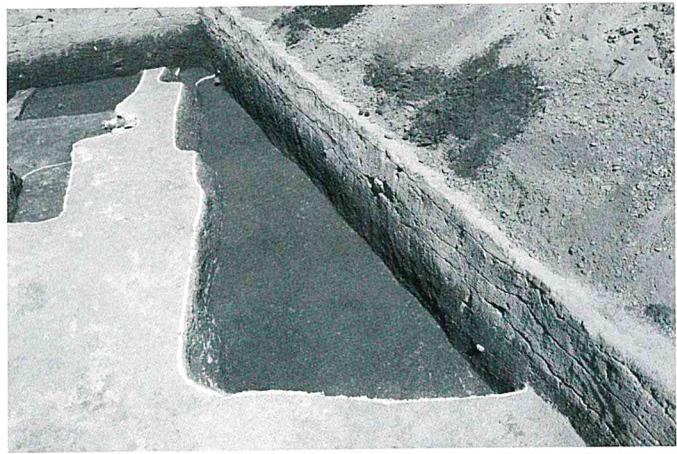
3号竪穴状建物 No. 3 出土状況 西から



3号竪穴建物 No. 6 出土状況 東から



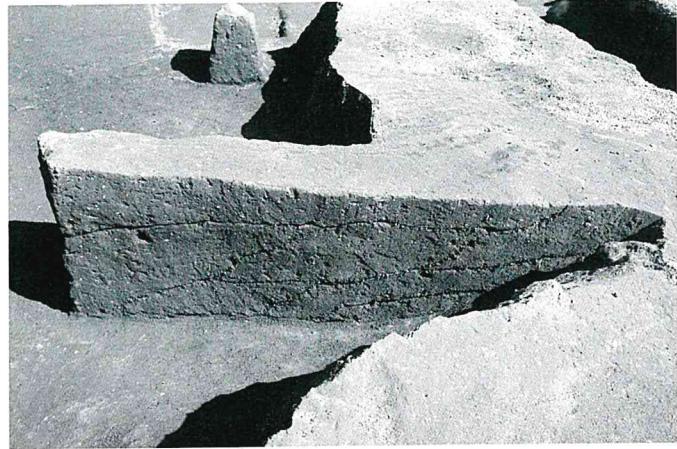
3号竖穴建物全景 北から



3・6号竖穴建物 掘り方全景 南から (手前が3号)



4号竖穴建物 A セクション 北東から



4号竖穴建物 C カマドセクション 南から



4・7・8号竖穴建物 全景 西から (中央が4号)



4号竖穴建物 No. 10 出土状況 北西から



4号竖穴建物 カマド全景 西から



4号竖穴建物 カマド掘り方セクション 西から



4号竪穴建物 カマド掘り方全景 西から



5号竪穴建物 Aセクション 北東から



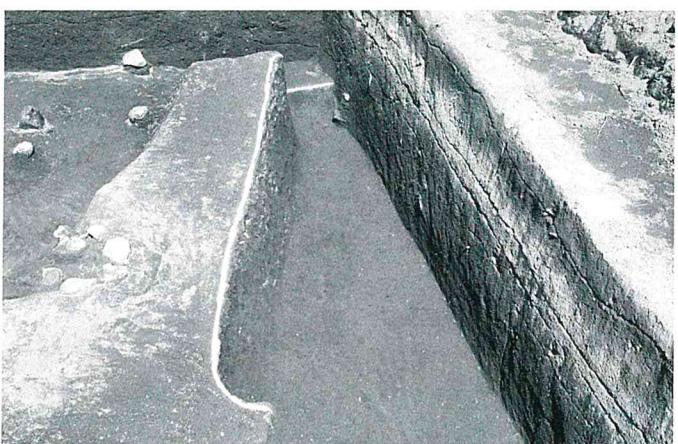
5号竪穴建物 遺物No. 11・12出土状況 南東から



5号竪穴建物 全景 南から



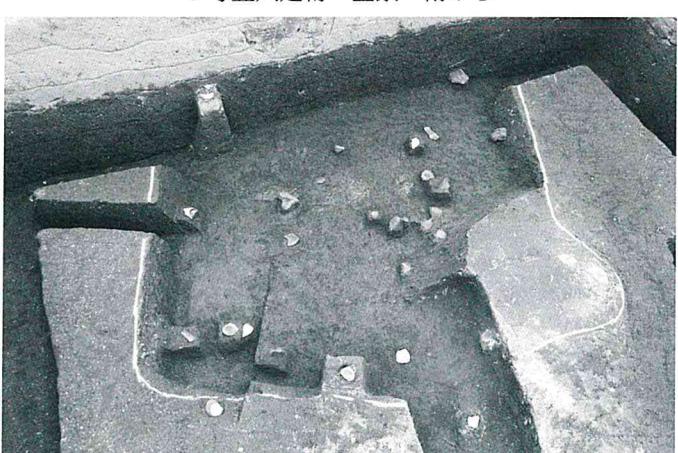
5号竪穴建物 掘り方全景 北西から



6号竪穴建物 全景 南から



7号竪穴建物 Bセクション 南から



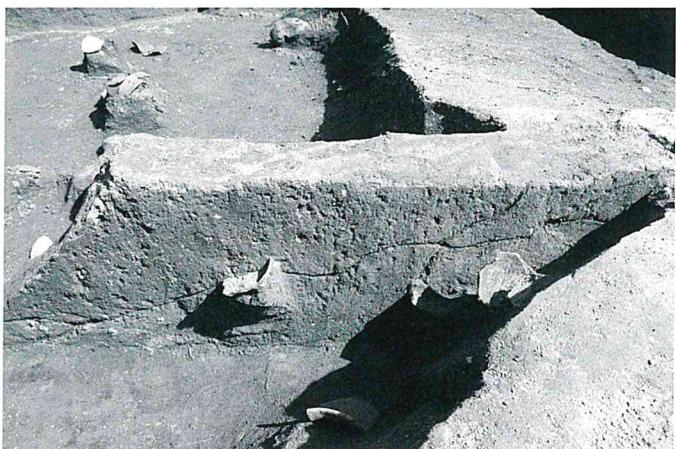
7号竪穴建物 遺物出土状況 南から



7号竪穴建物 No. 22・23・25 出土状況 西から



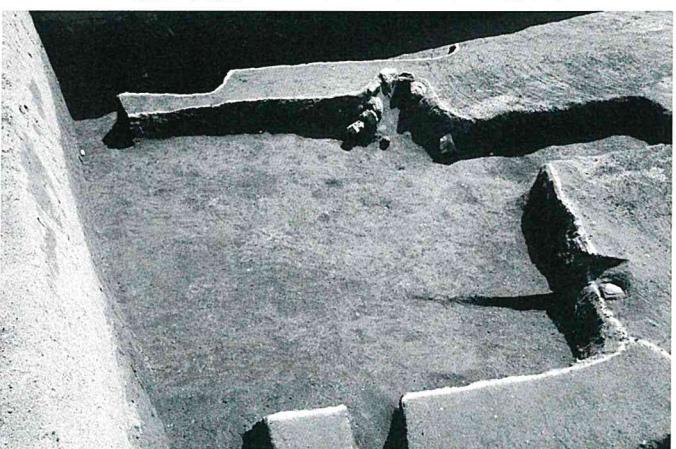
7号竪穴建物 No. 16・26 出土状況 北から



7号竪穴建物 カマド C セクション 南から



7号竪穴建物 カマド全景 西から



7号竪穴建物 全景 南から



7号竪穴建物 カマド掘り方全景 南西から



7号竪穴建物 掘り方セクション 南から



7号竪穴建物 掘り方全景 西から



8号竪穴建物 Aセクション 北東から



8号竪穴建物 カマド遺物No. 28～34 出土状況 北西から



8号竪穴建物 遺物出土状況全景 南から



8号竪穴建物 カマド全景 西から



8号竪穴建物 全景 西から



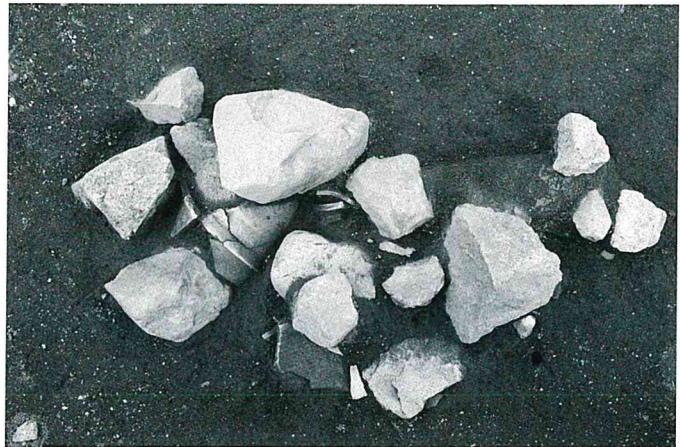
8号竪穴建物 カマド構築礫検出状況 西から



8号竪穴建物 掘り方全景 西から



8号竪穴建物 カマド掘り方全景 西から



1号集石遺構 遺物No.37・38出土・礫散乱状況 垂直(上が東)



1号集石礫除去後遺物No.35・36・38・39出土状況垂直(上が北)



1号集石遺構 Aセクション 南から (中央はNo.39)



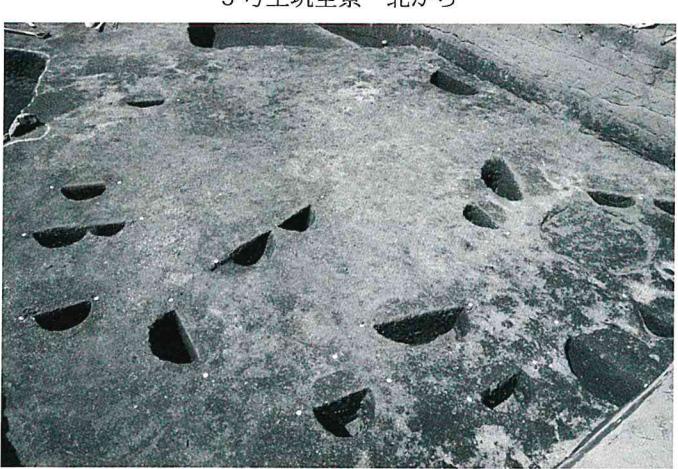
1～3号ピット・3・4号土坑全景 北西から



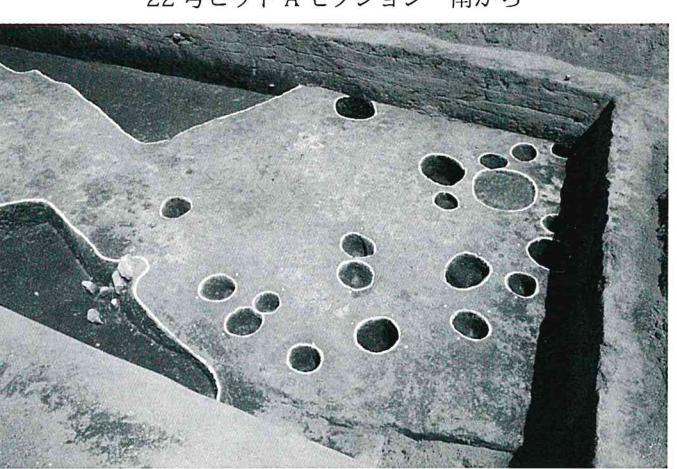
5号土坑全景 北から



22号ピットAセクション 南から



各ピット半裁状況 南から



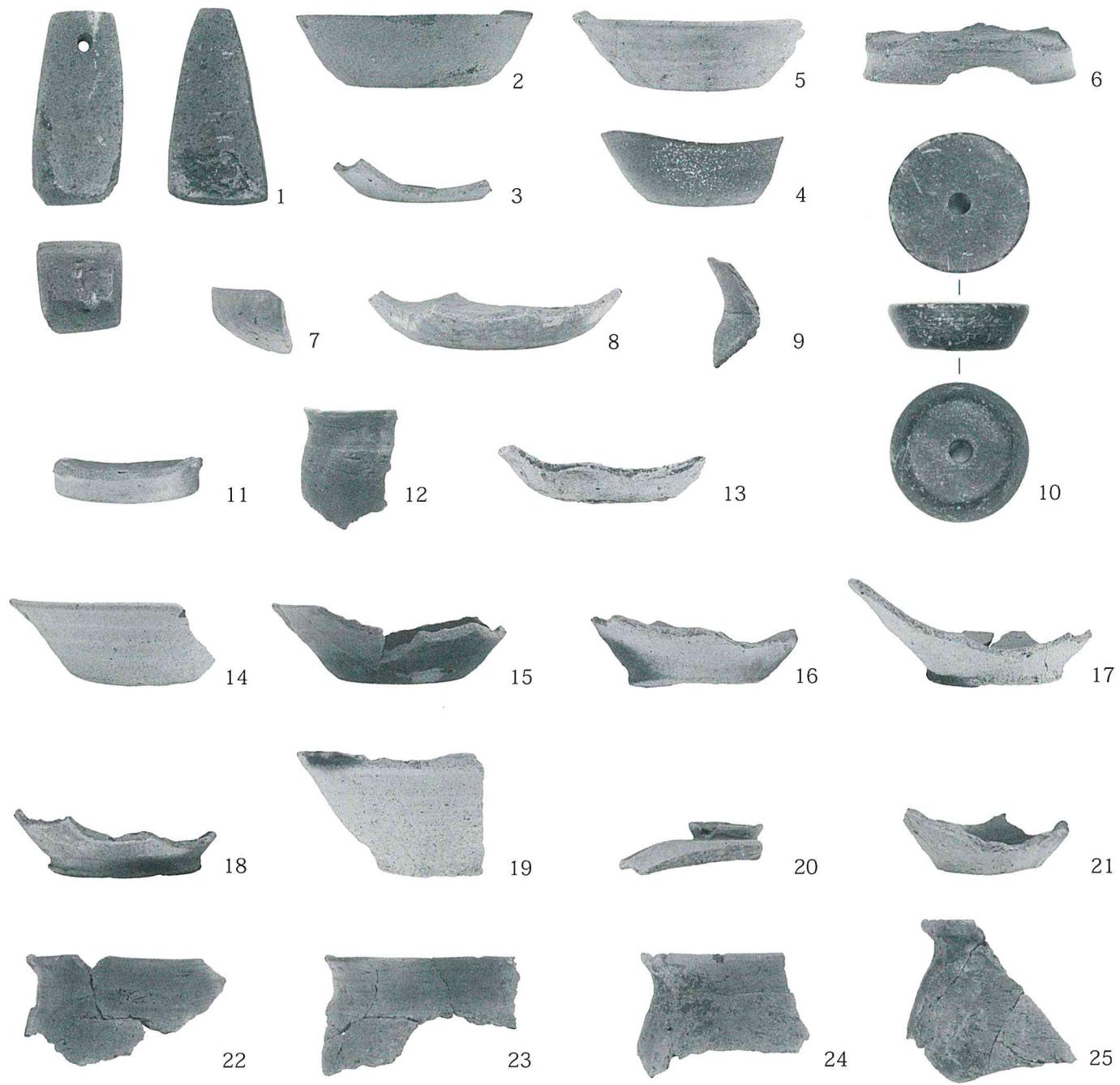
4～23号ピット全景 南西から

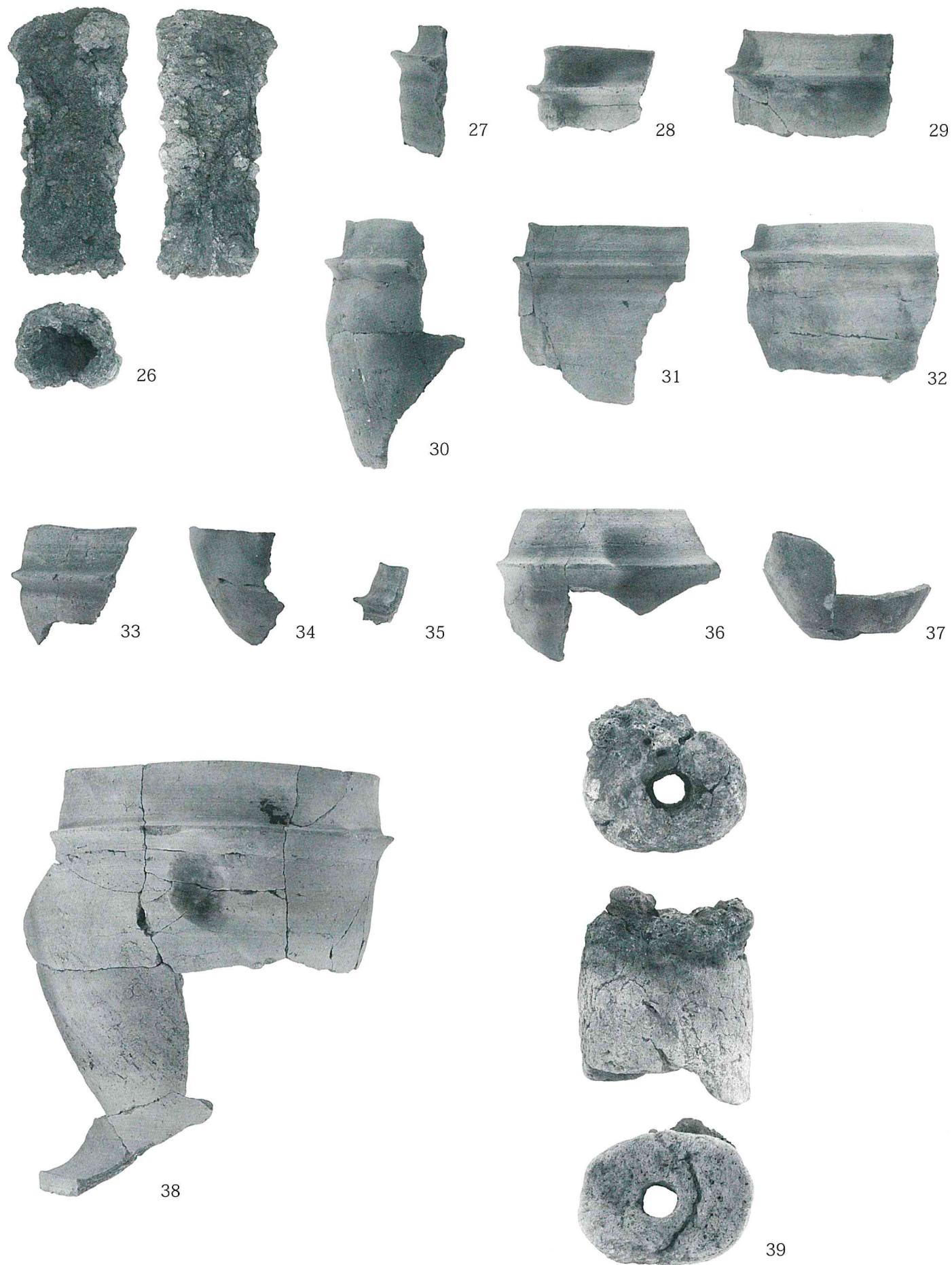


1面IV層上面 全景 南東から



2面VI層上面 全景 北西から





参考文献

箕郷町誌編纂委員会	1975『箕郷町誌』箕郷町教育委員会
田口一郎・北條元則ほか	1982『生原田島・大清水遺跡』箕郷町教育委員会
田口一郎	1988『海行A・B遺跡』箕郷町教育委員会
榛東村誌編さん室	1988『榛東村誌』榛東村
群馬町誌編纂委員会	1998『群馬町誌 資料編1 原始古代 中世』群馬町誌刊行委員会
高崎市市史編さん委員会	1999『新編 高崎市史 資料編1 原始古代I』高崎市
田口一郎・日沖剛史	2009『全徳森遺跡』高崎市教育委員会
澤田福宏	2021『柏木沢中沢遺跡』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	オイバラオオツカ イセキ
書名	生原大塚遺跡
副書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第472集
編著者名	澤田福宏
編集機関	有限会社高澤考古学研究所
編集機関住所	〒370-0005 群馬県高崎市正觀寺町665番地8
発行機関	高崎市教育委員会 文化財保護課
発行年月日	令和4年(2022)年3月31日

所収遺跡名	生原大塚遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市箕郷町生原字大塚669-1、672、670-3、670-1						
市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	818	36°23'53"	138°57'56"	20210329	20210430	78m ²	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
生原大塚遺跡	集落址	奈良・平安時代	竪穴建物・集石遺構 ピット 壇・土坑	須恵器・土師器	※8世紀中頃から10世紀にかけて急速に開発された集落か ※10世紀後半頃の包含層(周辺広域に造成か)
	生産址	近世			

— 生原大塚遺跡 —

高崎市文化財調査報告書 第472集

令和4年3月25日 印刷
令和4年3月31日 発行

発行 高崎市教育委員会
文化財保護課

編集 有限会社 高澤考古学研究所
印刷 上武印刷株式会社